将棋手ほどき

特259
567
33
23

始

特259
567

名人 關根金次郎校閲
八段 井上義雄校閲

將棋手ほどき

東京 大阪屋號發行

昭和五年 帝國文庫

將棊手ほどき序

將棊は小兒のころより指し習ふものが多くありますが、追々青年となり壯年となり四十歳前後となりましても更らに上達せずに所謂椽臺將棊、涼將棊で終るものが百人の中、九十九人であります、之れは届く處まで届けば後は行止つて進歩せぬと云ふが素人將棊の普通でありまして十人寄つて始めは多少の强弱がありましても暫くすると皆な同じ腕前となり其後は互ひに進歩せずに終るのが能く世間に在る處であります、其譯は筋に寄つて習はぬため人の智識にも格別の差別なき處より届く處までは届いても其先きへ獨りで拔け出すわけに及ばぬことゝ思はれます、因て十人並以上に强くならうとするには始めより筋に寄つて稽古するのが肝要であります、此書は極の初心者が筋に依つて稽古するため駒の並べ方より種々の心得、駒組、定跡の一通りまでを集めて小册子となしました

ので既に素人離れの爲たのちは別に將棊新報等の書に進む順序であります

此比又將棊の流行につれて大人にても始めて將棊を指して見やうと云ふ人が顯はれて其指し方を書た册子の有無を紹介し來る向きが澤山あるので、又此册子を刊行いたす動機となりました未だ駒の利き道も知らぬに棊客を聘するも費へなり面倒なりと云ふ人には多少調法をいたすかと考へられます

將棊を指すからには椽臺流に無茶苦茶に指して居るも、筋に依つて稽古するも同じ時間でありますが、其進歩して行くのと眞の妙味が分つて來るだけが筋に依つて稽古するの德であります、此書は此旨趣に依て初心者のために刊行いたします

明治四十二年十月

記者しるす

將棊手ほどき

はしがき

將棊は昔は德川幕府より將棊所と云ふを置かれて家元には政府より扶持を下されて置たものでありますから圍碁と並んで甲乙なく繁昌いたしたものでありましたが近年に至りましては圍碁の方には方圓社やら本因坊やらがありまして其道を維持て居りましたに反し將棊の方では家元が潰れて仕舞て社を興す人が無かつたために段々と碁の方に押されて衰ろへ拔きましたが此一兩年になつてから東京にて將棊の先生がたが此に氣がつきて追々會などを催ふすことゝなり又

將棋新報社編輯部編
名段　關根金次郎校閲
八段　井上義雄校閲

新聞などへも登るやうになりましたので將棊の道も次第に繁昌いたしかけて參りました、幸ひ此時を外さづとあつて我々どもが「將棊新報」と云ふのを發行いたしましたる處が大に時にかなつて發賣高も日に增し殖へて行くやうな次第でありまして此分では將棊も、やがて圍碁と並んで繁昌することゝなるだらうと思ひます、之を知つた書肆萬歳館の主人が「將棊新報」は誠に結構なもので定跡を一手々々に講義して行くと云ふことは昔から無い處で將棊を稽古するには六韜三略でありますが實は定跡を稽古いたさうと云ふには少しは將棊が指せなくては取りつき惡ひものでありますたとへば將棊新報は小學校を卒業した生徒の教科書とも云ふべきものでありますから、願くは小學校の生徒に敎へるつもりで一つ將棊の本を編輯して下りませんかとの相談で御ざいました「將棊新報」とても然六づかしいものではありませ

んで少し將棊を心得て居る人には誰にも益に立つのでありますが、先づ高等小學くらゐの程度は御ざいませう、然らば尋常小學の教科書も必用であらうと終に「將棊定跡解」と云ふのを出版いたさせました、之も幸ひに世間の望みにかないて僅か三ヶ月で三版を發行した程の勢ひであります、然るに萬歳館主人が又も參りまして「將棊定跡解」は非常に有益だとあつて評判が宜しいのでありますが其實は未だ尋常科とは云はれず此上にも一層やさしい處のものを一冊出版したいと思ひます、ソレは幼稚園から小學校へ入た處の極々やさしいのが宜しいやうであります之は文章も極々平易くして未だ將棊を指した事のない人にも小兒にも女にも分るやうに駒の並べかたからして說ていたいやきたいのでありますとの相談で御ざいます、ソンなやさしいものを出版しても却つて笑はれるだらうと答へますとイヤ將棊を指したくても

ドの利き道を知らぬと云ふ人が世間に澤山ありますからサウ云ふ人に買つていたゞくので平易いほどがよろしいのでありますとの注文成る程天文地理政治經濟などゝ云ふ六ヶ敷書物を出版するも書肆の營業、いと、いぬ、いかりなどゝ言ふ單語や「カア〳〵烏が飛んで行く」などと云ふこと書た書物を出版するのも肆書の役目之を編輯するのも學者の職務として見れば將棊の駒の行き道から說て行くのも將棊を敎ゆる任務かと我點いたしまして、いよ〳〵此書を出版することになりました。

此書は初めほど極やさしいのでありますが其中には幾等か多少心得た人の參考となることもありませうし又末に行けば追々に定跡も說てありますから全然將棊の指し方も知らぬ人でも此書を見ながら末まで研究すれば素人仲間では一寸指せるやうになります、追々と將棊の指せる時は尋常課卒業てすから然う云ふ人は、定跡解を御覽なさるがよろしく、又定跡解でも平易過ると思ふ人は「將棊新報」を御覽なさるゝがよろしい、さう順を追つて研究して行けば師匠がなくても有段の先生となることが出來ます。

盤と棊子

將棊の盤面は縱横各々九格でありまして木は多く框を用ひ又棊子は其數總て四十で主に柘植を用ひます、盤面の寸法は今は厚いのばかり流行りますが、長さ一尺二寸、幅一尺一寸、厚さ三寸五分にて盤面の裏の穴は幅二寸四分、長二寸五分にて其深さ中一寸、端一寸一分、足の高さは三寸で總高六寸五分と云ふのが定法であります。

棊子の列べ方及禮法

第一圖は將棊を指さんとするに先ち駒を並べた圖であります、又第二圖は駒の裏即ちなりの形でありますが玉將及び金將にはなりがありませんから除いてあり又第三圖は盤面の符號でありますに駒の並べ方にも禮儀がありますから不作法な事をしては不可ません左に十一代宗桂の手書を假りて參考に供します

將棊駒並様の事

第一圖

敵營								
香車	桂馬	銀將	金將	玉將	金將	銀將	桂馬	香車
歩兵	飛車 角行	歩兵	歩兵	歩兵	歩兵	歩兵	歩兵 飛車	歩兵
歩兵	歩兵	歩兵	歩兵	歩兵	歩兵	歩兵	歩兵 角行	歩兵
香車	桂馬	銀將	金將	玉將	金將	銀將	桂馬	香車
白營								

一、上手方より駒箱に手を掛け玉を座に置かざる内は下手方玉に手を掛けざる事

但し上手方玉を座に置き候後は下手方より早く並べ候とも不苦

一、玉を座に置き金銀桂香まで左より右と可並夫れより角飛歩は亦左より右に可並事

第二圖 駒の裏面

空	金	金				金	金	空
と	と	と	と	と	と	と	と	と
と	と	と	と	と	と	と	と	と
	龍馬					金	金	空

一、對盤の時歩三つを以て振り歩かと問ひ、何にても多く出でたる方、先と可知事

一、下手方は玉の尻に某造とあるを持つ可し

一、對盤の時高段の者駒箱に手を掛け餘りを仕舞ひ盤の下に入るゝは禮儀なり、同段の者は先昇段の者駒箱を扱ふべき事但身分の高下に非ず段の位による

一、將棊盤に對しては盤を離る

第三圖　盤面符號

九ノ一	八ノ一	七ノ一	六ノ一	五ノ一	四ノ一	三ノ一	二ノ一	一ノ一
九ノ二	八ノ二	七ノ二	六ノ二	五ノ二	四ノ二	三ノ二	二ノ二	一ノ二
九ノ三	八ノ三	七ノ三	六ノ三	五ノ三	四ノ三	三ノ三	二ノ三	一ノ三
九ノ四	八ノ四	七ノ四	六ノ四	五ノ四	四ノ四	三ノ四	二ノ四	一ノ四
九ノ五	八ノ五	七ノ五	六ノ五	五ノ五	四ノ五	三ノ五	二ノ五	一ノ五
九ノ六	八ノ六	七ノ六	六ノ六	五ノ六	四ノ六	三ノ六	二ノ六	一ノ六
九ノ七	八ノ七	七ノ七	六ノ七	五ノ七	四ノ七	三ノ七	二ノ七	一ノ七
九ノ八	八ノ八	七ノ八	六ノ八	五ノ八	四ノ八	三ノ八	二ノ八	一ノ八
九ノ九	八ノ九	七ノ九	六ノ九	五ノ九	四ノ九	三ノ九	二ノ九	一ノ九

敵營

自營

る事各々四寸にして端座し、箕居頽座を許さず、欠伸雜言又は駒を以て盤面を叩き、駒と駒とを打つ事助言すべからざる事、相手の駒を問ふべからざる事

駒の行路

玉將（單に玉と略す）八方一間利きなり

金將（金と略す）筋違ひに後へ二方を除きて六方一間利きなり

銀將（銀と略す）左右の横二方及び縱に後へ引けず即ち五方一間利きなり

桂馬（桂と略す）前一間飛んで左右へ一間利きなり

香車（香と略す）前一方だけ何處迄も利く

角行（角と略す）筋違ひには何處へも利く龍馬となる

飛馬（馬と略す）角のなりにて筋違ひには何處へも利き縱横には一間きく

飛車（飛と略す）縱と横とは何處へも利く、龍王となる

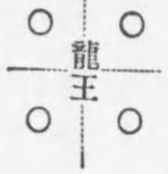
龍王（龍と略す）飛車のなりにて縱と横とは何處へも利き筋違ひには一間利く

歩兵（歩と略す）前一方一間利くとなる

銀、桂、香、歩はなる時は金、金、金、となり字の書やうは違つて居りますが其利き道は金と同じであります

駒の利道圖解

玉は俗に云ふ王様であります、○は此處だけへ利くと云ふ印であります……は何處までも利く印であります「なる」と云ふのは駒を裏返して並べ置くのであります、自營、敵營とは前の三筋だけが自營即ち自分の陣でありまして向ふの三筋が敵營即ち敵陣であります、なり駒の利き道は左の通りであります



右の通り飛車のなり駒龍王は普通の飛車の利き道の外に斜に一間づ

つ利き角行のなり駒龍馬は普通の角行の外に縱横に一間づゝ利きまして其他の銀、桂香歩の四つはなり駒となれば何れも金と同樣に利きます其代りなると元の駒の性質を失なつて香車も前へ何處までも利くわけにはまゐりません、桂馬も曲つて一間飛ぶことが出來ません、ソレゆゑ自分の都合で敵陣へ入つてもなるとならぬのは勝手であります、飛車角はなつても元の性質を失なはずに特別に又一間づゝ四ヶ處へ利くのでありますから大抵の場合にはなるのが德でありますが偶にはなつた爲めに敵の王を歩づめにしなくてはならぬ場合がありますから態とならぬ事もあります

いろ〳〵の規定

○駒は敵營に入る時は直ぐなる事が出來ます、敵營に打つた駒は今度の手で動かす時になる事が出來ます但しなるとならぬとは勝手でありますなりは元來其戰員の働きに對する褒美でありますから支那象棋では敵營に入らなくとも敵の重要なる戰員を殪す時はなる事にもしてありますが、日本の將棋は其行法の便宜上敵營に入つただけをなりに定めたのであります

○歩を打つて直ぐ玉が詰む時は歩打を禁じます、歩詰を許す時は將棋の手が狹くなつて興味を殺ぐからでありませう、但しなり歩又は突き歩なら差支ありません

○横なら搆ひませんが、縱の筋へ自分の歩があれば其筋へは歩を打つ事は出來ません、之を二歩と云つて禁じます但し歩がなり歩ならば差支ありません

○打つた所から先へ進めない時即ち利き道のない所へ駒を打つ事は

出來ません、例へば第三圖に於て二一、一一等へは此方から歩香を打つ事は出來ません又一二、二二へ等は此方から桂を打つ事は出來ません

○同手三度に及ぶ時は仕掛けた方より止めて外の手を指す規定であります、これは戻手詰手又は俗に千日手と申して何時まで指して居ても果たしが無いからであります

以上の規定は將棊の興味を益す深くする良い方法でありまして今日では誰も將棊を指すものは知つて居る事でありますが何時の頃これを定めたか判然分りません一説には將棊の家元たる大橋家の二代宗古の時に定めたのだとも云ひますが、同家の初代宗桂が圍碁の家元本因坊と指した棊譜を調べて見ますと今日の指方と異なる所が無く此規定に據つて指してあります但此譜が後人の僞作であるとすれば據所無いですが宗桂は元より本因坊も將棊の達人でありまして其時代

も織田氏以後の事であるから左程古くは無く、殊に元祿時代に於て其棊譜に評を加へてある所を見れば僞作とも思はれません、して見れば宗桂若くは宗桂以前に於て此規定があつた事と思はれます

技倆の階級及び駒の格位

將棊を指すには各々其力に强弱の差がありまして或者は平手即ち五分々々の駒で指しても或者は駒を落さなければ指せません依つて其技倆の階級を區別する事が必要となつて來ます、此れは初代宗桂の時に定めたと云ふ事でありますが初段から九段迄あります、九段は最頂上の達人でありまして之れを名人と唱へ德川幕府の頃は御將棊所の主宰として將棊一切の事を掌り段級の免許を與ふる權を有つて居りました若し又名人が無かつた時には將棊の家元たる大橋二家及び伊

藤家にて協議の上免許を與へたのであります、次に八段は半名人、七段は上手、六段は上手間手合、五段は上手並、四段は強片馬、三段は並片馬と呼び、初段二段には特別の名稱なく只手直りと云ひました

駒の位附は飛車は六段、角行は四段、香車は二段であります、故に一段違ひの者が指す時には香平交り又は半香と云つて一番は平手一番は香落で指し、二

第四圖　駒落定法

九段									
八段	香平交								
七段	同	定香							
六段	同	同	角香交						
五段	同	同	同	定角					
四段	同	同	同	同	飛角交				
三段	同	同	同	同	同	定飛			
二段	同	同	同	同	同	同	飛交一枚半		
初段	同	同	同	同	同	同	同	定一枚半	

段違ひは香落、三段違ひは角香交り即ち一番は角落一番は香落で指すのです、例へば名人と初段とが指す時は一枚半即ち飛香落であります桂馬には位附がありませんが五枚落の時は四段位六枚落の時は六段位であります

練習の三要素

以上說く所によつて將棊を指す迄の事柄はお分りになつたでせう、これよりは何うして之れを練習すべきかと云ふ問題であります將棊は我一手指せは彼亦一手を指し各々一手づゝ指して行く內に片方の手が詰んで玉の居る所が無くなつたのが負けたのでありまして詰に到る迄には數多い手があり、其手の中には意味深長にして無量の變化を含んで居るのもありますから總ての變化を知悉して仕舞ふのは容易

の業ではありませんが、將棊練習の三要素とも謂ふべきは一に定跡、二に寄せ三に詰であります、此三つの者に精しいければ精しい程將棊の技倆があるのでありまして彼の名人といひ上手といふは要するに此三つの者に精通して居るからであります、左に其概要を述べませう

一、定跡　定跡は將棊を指す方法に就て最も良い手を撰んで定法としたものであつて、右の三要素に於ても第一に位する最重要のものであります、將棊は若し双方共良い手ばかりを指したならば平手は先手方が勝ち又駒落は落された方が必ず勝つべき道理でありますが然るに駒を落されても勝つ事が出來ないと云ふは良い手が指せない即ち定跡に暗いからであります、能く定跡外れなどと云ふ無法を指す人がありますが其れは双方共素人ならば兎に角段以上の人には決して應用しません、定跡は悉く末の變化に應じて虚實を謀り敵に虚あれば進み進む中にも内の堅めをしてありますから内外能く一致して駒が自由に働らきます、然るに無法將棊は駒組が法に叶つて居ませんから進んで敵を攻むる場合にも駒に力が無く又退いて防ぐにも堅固に組む事が出來ません、況して一度變に向ふ時は急に組替へる事が出來ず駒が放れ〳〵となつて直に敗れて仕舞ふのです、定跡の事は下編に於て詳しく述べます

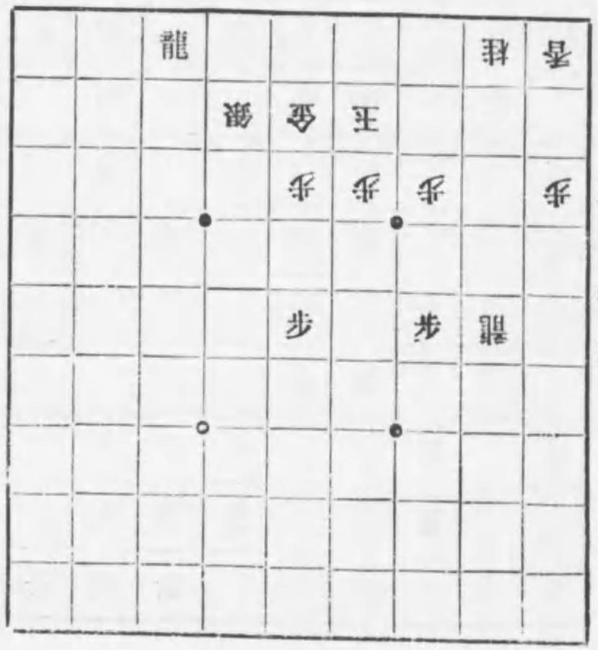
二寄せ　寄せとは互に敵の玉を攻め合ひ遂に必死を掛ける迄の手をいふのです、將棊は勝敗の間際に到ると多くは双方共玉は危險に迫り若し一手無駄を指す時は勝つべき將棊も負けになるのでありまして危機一髪の間悠揚迫らずして勝を制するのは寄せの力でありますから此力の養成も亦大に必要であります、寄せは將棊の末の手でありますから實は定跡の中に加へても良いのでありますが定跡の手は主に

勝敗の斷定がつく程度にて止める故其れより末必死に到る迄の部分に寄せと云ふ名稱を附けて便宜上これを區別したのであります、必死は無論寄せの内の手でありまして敵の玉を詰るにつき止めとも謂ふべき手を指し、此れが爲め次は詰手に移り何うしても凌ぐことが出來ない手を云ふのです

第五圖の駒組に於て此方の持駒に角と金があれば必死を掛ける事が出來ます即ち二三角打にて何うしても玉は凌ぐ手段がありません、同龍と引いて角を取る時は四一金打、三二玉、三一金、二二玉、二一金、一二玉一一金、二二玉、二二龍にて詰み、又七一銀ならば四一金打にて詰み、又五一金と引く時は、四一金打にて此金は取れないから五二玉とよる五一金と迫蒐けます、其時六三玉ならば七四金打、四二玉ならば四一角なるで詰みますから同銀と引いて金を取る六二金打にて同銀ならば四一

角なる四二玉ならば五一龍にて詰みます、又三四歩と突いて玉の逃げ道を明けると三二金打があり、四四歩と突いても四一龍と廻られるから五四歩と突けば同歩にて矢張り必死であります

第六圖は互ひに火花を散して戰ふ所即ち寄せに適用する一例であります、先づ向ふを▲方とし手前を△方としまして此



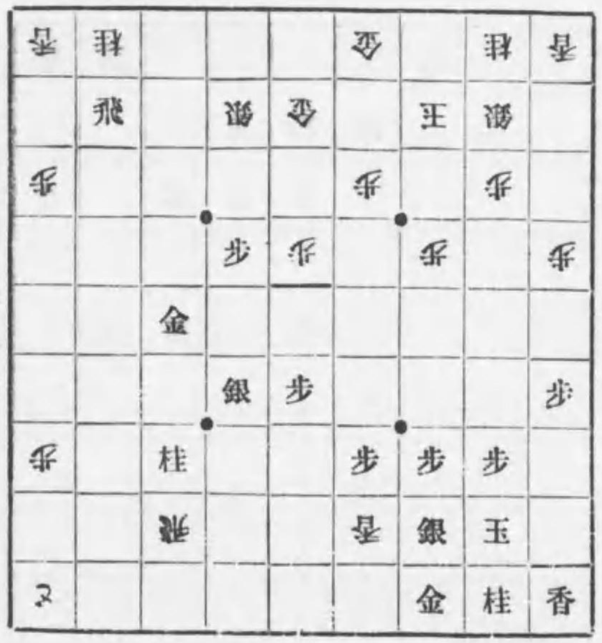
第五圖　必死

持駒　角、金

處▲方の手で▲六七角と打ちました此れは手前方に取りては恐るべき手でありまして次に四九へ香になられると破られて仕舞ひます、と云うて此方を捨て置て向ふへ蒐つて先手を取る手段もありませんから茲は何とか防がねばなりませんが持駒は角と歩二つで角を打つ所はありません故飛の横利きを避けて香を取る手段として△七九歩と打ちます▲九

第六圖　向▲印　手前△印

持駒　△角、歩二つ　▲角、歩二つ



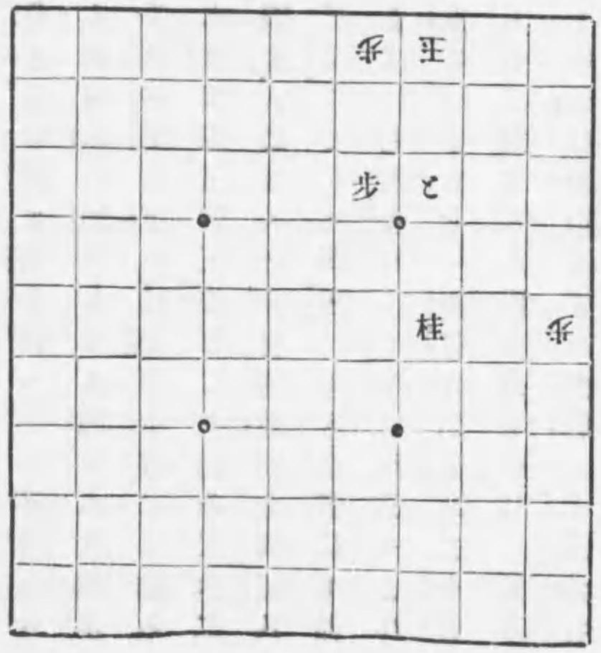
八飛なるにて矢張横筋が通つて居ります其時△七八角打にて漸く止りました向方は角を換へては面白くないので飽く迄も四九へ角の利きを通して置く積りで▲九四角なると指す、此方は此時香を取つて居ても良いが龍の横は止まつて居る故向ふへ蒐つて先手を取る積りで△八一飛なるにて桂を取ります と▲八九と寄せて來ます、今度は七九へ此と金を寄せられては矢張破られますが八九角と行けば六八龍と這入られ又八九龍と引く時は取換つて飛車を打込まれる手がある故茲では四八にある香を拔く手段でありますが四八金にて七九とにて惡い故△五七銀と引きます、向方は四八銀と引かせて香を取られたでは容易に崩すことが出來なくなると指す此方は同銀と取つては玉の龍を玉に當てる爲め▲四九香なると横が明くから△同金と取る▲同馬と切る△同銀と取らねばなりませ

ん其所で▲七九と寄られました、さあ愈よ危急の塲合となりました角を取られるのは仕方も無いが若し我玉の備へでもして居れば角を拔かれて次に寄せられて仕舞ふので此方に取つて實に危機一髪の塲合であります、然らば何うしてこれを凌がうかと云ふに△八七角と打つのです、向方は茲で龍と角とを換へては敵を攻むる掛りが無くなるから▲八八龍とよる其處で此方は△四四桂と打つて先手を取るのです、これは王手であるから捨てゝは置けませんが若し同歩と取れば五四角の王手を掛けられ次に八八龍と拔かれる手がある故▲四二玉とよるより外ありません、此方は十分勝の見込がつきましたから△四一龍と切るこれも▲同玉の外ありません△三二金打▲五一玉△五二桂なる▲同玉△九六角と上ります、さあ今度は向方が却つて危急存亡の塲合となりました此所玉が六一へ逃げると五二金打があり又五三へ

上れば六三歩なるにて角を切られる手がある故先ず▲八五歩と打つて敵の指方を伺つて見ます△同角と進む、龍と角を換へても不可ませんから▲六三歩と打つ△同歩なる▲同銀△同角なる▲同玉△六四歩打にて五三玉とよれば六五桂にて其時玉は下れば銀打金打にて詰み又四四へ上れば四五金打同玉、四六銀、四四玉、四五香打にて詰み、又六二玉と引く時は六三銀打、七三玉、七四金、八二玉、八三歩打、同龍、同金、同玉、八四香打、同玉、八五飛打にて次は七三玉にても九四玉にても金打にて詰み又最初六四歩打の時七三玉とよばれ七四香打にて玉は八三へよれば八四へ歩を打たれるから八二玉と引くと七一銀打、九二玉、八二金打同龍、同銀なる、同玉六二飛打、八三玉、七二飛なる、九四玉、八五金、にて詰みます、其れ故此處は▲七二玉と引くの外は無いですが矢張△七三歩打にて凌ぎがありません例へば▲同玉と取る時は△七四香打にて八二

玉ならば△七一銀打にて玉は八三へ上れば歩を打たれ九二へよれば金を打たれて龍を取られて詰むから七四香打の時に▲八三玉とよつて見ても△八四歩打▲同龍△同金▲同玉△七五金打▲八三玉△七三飛打▲九二玉△八三銀打▲八一玉△七二飛なるにて詰みます又△七三歩打の時▲八二玉ならば△七一銀打があり、▲八三玉ならば△八四打があつて何

第七圖　詰將棋



持駒　香、歩

うしても詰でありません

三、詰扱て定跡と寄せの大体が分れば次は詰であります、詰とは既に必死が掛つて居つて王手々々と一手すかさずに詰める事でありますが高段の指將棋になると必死が掛つて仕舞へば最う指しませんが詰將棋も手の數が多いのになると却々分り憎いものでありまして伊藤看壽の六百十一手詰、大矢數の四百手詰、宗看の二百五十手なぞと云ふ大詰物があり、其他二三十手位の詰物でも其中には妙手と謂ふべき手があつて一寸考へのつかないものでありますから、手合に際して詰を逃さぬ爲め常時練習して置くの必要があります

第七圖は詰將棋の一例でありまして此駒組では此方に香と歩があれば詰みます但し一五に向の歩が無い時は歩の合駒を打つ塩合があります詰みません(詰將棋は此方の持駒を除けば殘りの駒は皆玉方

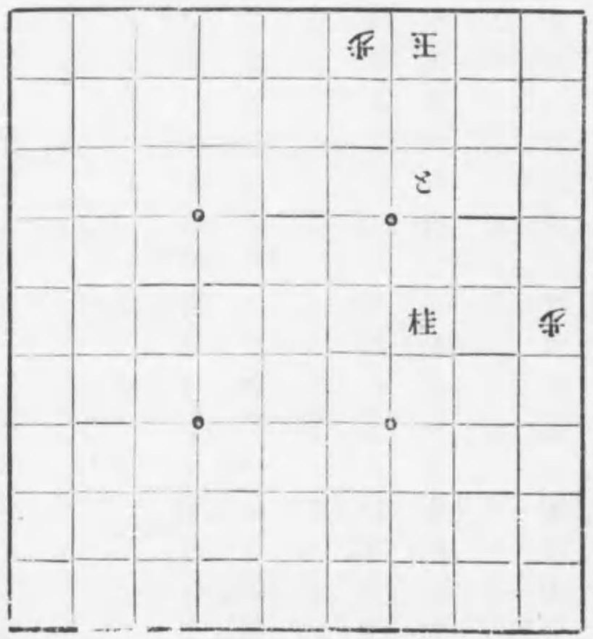
の持駒であります)扨て此詰方は△二三桂ならず▲二一玉△二二歩打▲一二玉△一四香と打つ此時玉方は一五に我歩があるから歩の合駒が打てません又外の駒を打つにしても香、桂、金、銀、飛の中ならば何を打つても詰を早めます故▲一三角と打つ△一一桂なる▲同玉△一三香ならず、此時も前の塲合と同じですから▲一二角と打つ△同香なる▲同玉△三四角打▲一一玉△二一歩なる▲同玉△三二角打にて此時三一玉とよれば四一角なる故▲一一玉とよる△一二角なる▲同玉△二三角なる▲一一玉△二二とにて二十三手で詰みます

第八圖も詰む形でありますが四三に此方の歩が無いから前の詰方では四一へ角をなり捨てる手が無いので詰みません、此塲合には△三二歩と打つ▲二一玉△二五香と打ちます、玉方は二三へ金の合駒を打つ一手でありますが直ぐ打つたでは三一歩なるにて次に二三桂ならず

と指される手があるから先づ▲二四桂と打ち△同香と取らせて香の位置を換へさせて後▲二三金と打ちます此方は此時三一へ歩がなつたでは一一へ玉によられて詰みになりませんから△二三香ならずと行く▲二一玉△二二香なる▲一三玉△二三と▲一四玉△二四金打にて詰みます

若し又第八圖に於て一五にある玉方の歩が一六へある時は

第八圖　詰將棋



持駒　香、歩

詰まないのであります、即ち右の詰方の終ひの手で△二四金打の時▲一五玉と上られて手が切れるのであります

駒組の心得

扨て是れ迄説て來た所によつて將棊の概念は會得されやうと考へますから次は愈よ定跡の組方に移らうと思ひますが其前に一通り駒組の心得を述べませう

▲玉は早く片附けよ　玉は成るべく早く片附け堅固にするが專一で す玉の圍ひが無い時は内に弱味があるから良い手があつても敵に蒐る事が出來ません

上略……玉は決して匹夫の勇を揮つて挺身してはならぬもので是非共金銀の護衛がなくてはなりません、兵戰でも其通りで昔今川義元

が桶狹間で一敗地に塗れたのも畢竟此原則に反したからだと思はれます其れかと云うて外駒の配置もなく矢鱈に玉ばかり圍ふ者がありますが彼れも不可ません、甲洲の武田大膳太夫晴信は己れが居城を築きませなんだ「人は堀、人は石壘人は楯情は味方敵は仇なり」と申しまして八花形の館にあつて英名日本國中に轟き渡り他國の者も武田の領分に足を入れた事は無かつた、將棊も其通りで外駒が要所々々に配置してあれば玉を無暗に圍はなくても堅牢なる廣い城中にをると同じです、然るに晴信の死後一子勝頼の代になてつ新たに甲府に城を築いて却つて武田家は滅亡したではありませんか……關　根　八　段

▲玉は角筋を避けよ　角筋に玉の居るのは最も忌むべき事でありまして其れが爲め始終守勢を取らなければならぬと云ふ不利なる位置に陷ります

角行の筋飛車の通りに玉などは圍はぬのもとかねて知るべし……

土岐左近

▲金銀の使ひ方　金銀は常に玉の脇に置き、輕々しく頭に上つては、不可ません、殊に金は進むには早いが退くには遲い駒であります

玉のわき、金を離さぬものと知れ、先を見合せ逃道をつけ……

土岐左近

▲飛角の使ひ方　飛角は敵を攻むるには最も働らく駒でありますから、常にこれを活用し善用する事を心掛けねばなりません、殊になつては其働らきも格別でありますが、龍王は横利き故敵地に置くを利ありとし又龍馬は筋違ひに利く駒故引いて使ふが善用の途であります

飛角は先鋒の大將と立てありますから、其道先を塞ぎ或は奥深く封じ罩めて置くなどは最も忌むべきことです、又敵地に斬入る前先づ味

方の城壘を堅固にして置くことを忘れてはなりません、敵の陣中に少しでも餘地があつたら歩を付けてならして置く事を怠てはなりません其れから此所が天王山と云ふ地點に對しては何んな高い犧牲を拂つても搆はず其所に死力を盡して爭ふが肝要です、近くは日露の役旅順に於ける乃木大將の戰略は採つて以て將棋攻勢の龜鑑にす可しだと思ひます……

關根八段

飛車先の歩は突き拂へ飛車のそば、銀を離さぬものと知るべし……

土岐左近

▲桂の使ひ方　桂は其とび早き時は俗に謂ふ「桂馬の高飛び歩の餌食」で損となり、又遲い時は勝が少ないものであるから其見合が肝要です手に持つた桂は直ぐ敵の駒に當るやうに打つのが常であるが能く其塲合を見て含みあるやう打つべきです

▲香の捌き　香あれば端より仕掛ける含みは始終持つて居らなければなりませんが妄りに端歩を突く時は却つて手後れになる事が多いから好い時機を見て指さなくては不可ません、香ばかりでは容易に端は崩せません、桂を上るか打つかの含みが必ず伴つて居るべきもので且又端を痛めて敵の駒を繰上げたならば、一方には飛角等を以て其虚に乘ずべき含みで指す可きであります

▲駒の換りを慎しめ　駒を手に持てば其働きは別して強くなります から茲が必要と云ふ場合は進んで取換るべきであるが妄りに換る時は却つて敵に利器を與へるやうなものですから慎む可きであります

向から角を換るは我方に打ち所ありと用心をせよ……

土岐左近

▲鹿相から、駒を損するものぞかし、思案の上で歩をも突き出せ……

駒は輕々しく換へては不可ません、殊に歩を持てば格別の働きが出來ますから先づ歩の換りを用心せねばなりません、持駒は常に伏兵と心掛けて注意すべきであります……

同　人

關根八段

▲駒組の法　進んでは其駒にて前を圍ひ圍つては向へ仕掛けるのが駒組の法でありまして双方共良い手を撰び定跡に從つて組むべきであります、若し又敵が定法をはなれて仕掛けて來る場合があつたなら決して夫れに驚いては不可ません、定法に背いた駒組は末に到れば必ず差支のあるものであります

向から、かゝらば敵の駒しらべ、跡の手の無き方へ逃ぐべし……

土岐左近

金銀の駒をつないて進むべし、放れ駒には後先を見よ……

將棊は初め二三十手の内指組大事たる可し、初めの内に非手有之時は終り迄弱になり指直すことなるまじき也、先に非手有之時弱に乘じて其所拔からずに指す時は肝になるべし、又手前に非手有之時は先より其樣指さるゝ故負になると心得、一手々々に見合せ始終を見届けて指すべきと專らと心得可し、詮議をつめて見る時は双方負けざる筈なれども微塵の非手有之方負なる可し……下略　大橋宗桂

上略……總じて四五手先も見届けざる者は盲指と謂ふべく、却々上手に勝つ事稀なり、始中終を見届ける程ならでは將棊を指すとは云ひ難し……中略……田舍將棊は習ひ無く地力ばかりにて指す故指組に虛あり虛と云ふは習ひ無き故衆駒離れて自由に働かざる事なり、習ひあれば駒と駒とのつなぎよく自由に働き相手より思ふやうに破り難し、之れを習ひの實と云ふなり……下略　同　人

將棊には駒形と云ふ者があります、形の良いのは定跡による駒組ですから容易に破れませんが、駒形の惡いのは習ひの無い將棊でありまして直に破れが見えるものであります……關根八段

▲駒落　駒を引いた將棊には下手方は其落駒の痛みを指さなければ不可ません、落駒の痛みを指さなくては駒を落された効能がありません、但し一圖に其痛みばかり指さうと心得それにのみ勢力を集中する時は却つて上手より其虛に乘じられます、夫れ故落駒の痛みを指すと云ふは、これを指すやうに見せ掛けて指さず夫れが爲め敵の駒を箇々に分離させ勢力を殺いて後勝つ可きで畢竟味ひを以て勝を制するのです、香落の如きは落したと云うても僅か香一つで上手方は先手に出るのですから猶更此味ひと云ふ事が肝要です、又飛落角落等に於ても此心掛けが專要でありまして下手方は飛車や角を活用す可く、上手方

は之れを受けて敵の飛角を不自由にするので勝敗が分れるのであります

上略……總じて駒を引た將棊には上手の形勢に頗る振はぬ欠所がある者ですが其所が乘ずべき戰機かなんぞのやうに心得て無情に戰鬪を仕掛けて攻手に出るやうな事があつて御覽なさい其れこそ破滅の基で忽ち敵の術中に陷り自分から敗北を招ぐやうになつて果は必ず守勢に變り到底支へ切れなくなつて自滅を取るに極つて居ます、それに飛角が緘じてある將棊には決して右の駒に逆うては不可ません

下略……

關根八段

駒落は香落より其香の弱み出る筈なり、香の弱み出ぬやうに釣合すべくと思へども、之れにひかれて弱み出るなり、香の弱みを受ける振にて受けず、釣合ひて指すやうあるべし、相手より香の弱みを無理に授すべしと思へば先も香を落す程の上手なれば無理なる處を棄て其裏を行きて先を取る時は却つて手戻るべし、相手より香の弱みを急に指さずして自然と其弱みの先を取るやうに指す可き也大要は斯くの如くにて其時の振により品々手段あるべし……大橋宗桂

▲勝を急ぐな　將棊は總て勝を急いで指しては不可ません、勝を急ぐ時は隨つて無理が多くなるから却つて自ら敗を招ぐものです勝は最終の結果でありますから只負けぬと云ふ事を心掛け手前を堅固に守つて指すことが肝要でありまして爾する時は自然と勝に向つて來ますそして勝に向つたならば愈よ愼しんで指さなければなりません

勝に出でたる將棊は不急指を良しと心得べし、手數の考へなく指す時は相手より急の仕掛にあふ事あり、能々手段の遲速可知ことなり……

大橋宗桂

▲殘らず盤面を見よ　將棋を指すに、向へばかり心を留め手出を見合はせることを忘れてはなりません、手前を見合せ一手々々に盤中を殘らず見て良い手を撰んで指すのも手前を見合せ一手々々に盤中を殘らず見て良い手を撰んで指すのが最も肝要であります

上略……然も將棋至極の大意と云ふは、初手の一手より玉の詰迄其一手毎に盤面にある指方幾通りにしても殘らず見届け其内圖に當る指方を用ゐること肝要たるべし……大橋宗桂

▲不思議の詰無し　詰際は決勝點のことでありますから、一手なりとも早く詰る指方を用ゐねばなりません、手遲い指方をして詰損ふのは實に馬鹿氣て居りますが、亦巧みに詰めたからと云うても別に不思議と稱するに足りません

先年駿州にて松平五郎右衛門殿と日比半平との指將棋に詰み申さざる所を半平不思議に詰め皆々感じ入りし由定めて此段不思議に詰みたるにある可らず詰ある所なれども皆々不手故に見え兼ねたるなるべし、詰なき所ならば誰が詰めたりとも詰み申さぬ筈なり詰ある所故半平能々案じ詰めたるなるべし、上手には不思議の詰抔と云ふことは無く互の上手にては位詰の勝負より外無し不思議の手段は一方弱き故なり詰ある所も見えざるとこは必ず上手には無之事なり……下略

詰際は、一手も早き方を見よ、隅々にある駒を見て指せ……大橋宗桂

土岐左近

定跡講義

之れまで出した處で將棋の指し方はお分りになつたことゝ思ひま

す既に將棊の指し方がお分りとなれば之から駒組のことをお話いたします駒組とは先づ敵を責めやうとする前に陣地を布く法でありまして一方には自分の王將を守るべく駒を組み立て一方は敵を攻むべく駒を進めて行くのであります同じ駒の中でも其利き道に依つて玉を守るに便利の駒と敵を責めるに便利の駒がありますから之を巧みに使ひ分けて行くのが陣法であります譬へば金銀の如きは始めには是非玉の守りに備へて置きますが飛車角行の如き飛び道具は始めから敵陣を破壞するの目的で用ひられます之が反對に飛角で玉を守つて金銀で敵を責めに行つて御覽なさい、屹度負かされて仕舞ひます此位のことは誰にも分りますがサアそれならば其金銀を何云ふ案排に組み立てたならば一番に玉を守るに安然であらうか飛角を何云ふ工合に捌ひたならば早く敵陣に切り入るこ

とが出來るだらうかと云ふのが大問題であります若し將棊を稽古しやうとする人が天才非凡の者であつたならば自分の考へ通り守りもし責めもしても自然筋にかなつて堅固に守れ巧みに責めることが出來ませうが普通凡人に在つて自分流では筋が立ちませんから守ることも責めることも出來ません、之に依つて昔の名人たちの指した將棊の中から一番能いと云ふのを撰ひて之に工夫を加へて一定の型を示した駒組法が出來たのを一口に定跡と申します、戰爭で申さば陣法でありますし將棊には敵の強いのと弱いのは向つて駒を引くことがありますから何時も同じ定跡にはまゐりませんそれ〴〵に定跡がありますし、又同じ平手又は飛車落ちの中にも

の出かたに依つて此方の陣方が違ひますから定跡の種類には幾通りもあります之を大抵呑み込めばモー有段の指し手であります

一時に之を出すことは一冊子の及ばぬ處であります、此冊子には各種の定跡を一通り又は二通りぐらゐづゝを出して置きます始めて將棊盤へ向つた人でも自分勝手にボカ〳〵指ずに此定跡を研究しつゝ指して行けば筋が能くなつて上達が早いのであります、次に此定跡だけで不足を覺えるやうになりましたならば先きに出板した「定跡解」を次に「將棊新報」の定跡講議をと云ふ順序に研究なさらば終には何段と云ふ指し手になることは受け合ひであります

扨定跡の講議に移るのでありますが講議中に用ゆる言語につきて左に一二を説明して置きます

先手　と申すのは先きに指す人

後手　と申すのは後から指す人

上手　上手と申すは平手番の時には後から指す人で少し強い方であります

から之を強手とも申します但し駒を落した時には上手でも駒を落した方が先きに指しますから講議中の△印は平手番の先手方又は駒落の上手方の印しといたします

下手　下手と申すは平手番の時には先きに指す人で少し弱ひから又弱手とも申します但し敵が手を落した時は敵が先きに指して此方は後に指しますから▲印は平手番の時には後手方駒を落された時には下手方の印といたします

駒落

六枚落　之は飛角、桂二、香二を落すので俗に云ふ金銀將棊であります

五枚落　飛角、桂二、香一、を落す

四枚落　飛角、桂二を落す

二枚落　飛、角を落す

飛、香落　飛車と香一つを落す之を一挺半落と申しまして名人（九段）に對する初段の手割であります

飛落　飛車を落す五段違ひであります

角落　角行を落ち四段違ひであります

香落　香車一つを落します、右でも左でも其時によりますが今日では大抵左が流行ます二段違ひであります

平手　俗に云ふ對馬でありまして駒を落さずに指すのであります互格の手合ひには双方が互ひに一度づゝ先手後を指しますが一段違ひとなりますと強い方が一度は香落を指し一度は後手を指して之を半香又は香平交りと申します

將棊の定跡は昔から數多くありますがそれは皆二枚落から平手に到る迄でありまして二枚落以下の定跡と云うては唯天野宗歩氏の精選にあるのみであります畢竟二枚落以下の如きは二枚落さへ習つたなら隨つて解ると云ふ理由でもありませうが、それでは初心のお方には却々お解りになりますいまいと考へますから、本書には六枚落即ち金銀四枚より四枚落（飛、角、香、香落）に到る分も掲ぐる事としました

六枚落

（上手方△印は先手又は上手方とし　手前下手方▲印は後手又は下手方とし）

六枚落を指すには下手方は最初金銀が上つては不可ません、上手には端に桂香がありませんから下手は端から仕蒐けて飛角をなゝ趣向を立るのが良いのであります

上手先づ△六二金と上るは模様を見る手でありまして右端から攻ら

るゝ塲合には七四歩を突て七三、八四と上つて防ぎ又左端から蒐らなれば五四歩を突て、五三四四と上り左の金銀と共に防がうとする意味です、次に下手▲七六歩は角の筋を開けたので之れは將棋の定法として最初に指す手であります、△二二銀は角のなりを防いたものでありまして茲で三二金と上つては右端を攻られる塲合に六四歩を突て右端へ上るにも一手遲くなり加之又三二金と上る時は右端へ飛車になられて攻立てられる塲合には玉の開く道を塞ぐからでもあります▲六六角は九筋へ飛車を廻つて攻め又は五六歩を突て五七へ引き一筋から攻ることも出來る手で角の利きを廣くしたものです△八二銀と上る▲九六歩と突くのは九筋へは角の睨みも利いて居るから香又は飛の廻りにて此端を崩さうとするのです△六四歩は角の頭へ突掛けて利き道を變へさせやうとするのですが其時下手は▲五六歩と突て

置くと六五歩を突かれても五七角と引けば角は敵の右端へも左端へも睨みが利きます△七四歩は次に金が上つて角筋及び香先を防がうとするものでありますが▲九五歩△七三金▲九六歩△同歩▲同香△八四金▲九八飛と廻つて此端は崩れるのであります、九八飛と廻る所を九二香なると指しては不可ません若し先に九二へ香なると七三銀、九八飛九五歩

▲九八飛の局面

持駒　▲歩　△歩

				玉	金			
	銀						銀	
	歩			歩	歩	歩	歩	歩
香	金	歩	歩					
		歩	角	歩				
	歩		歩		歩	歩	歩	歩
飛								
	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香

打と防がれますから其手順の前後は大切であります、扨て上手は茲で何う指すかと云ふに九五歩打か、七三銀かの二つでありますが何れにしても最早敗れて居るのであります

▲九〇八飛の變化一　此時上手方△九五歩打と受けて見ませうか其時は下手方▲八四角と切つて良いのであります若し八四角の所を九二香なる、七三銀、八四角と指す時は同銀と上られて飛先が止まりますから御注意を願ひます△同歩▲九二香なる△七三銀▲九五飛にて上手は角一つですから防ぐことが出來ません例へば上手方四二玉と逃れば九三飛なる六二銀と引かせて下手方は四八金と上つて五七角打を豫防し置き次に成香を次第に寄せて行けば無論の勝であるし、又▲九五飛の時上手方△五七角と打てば▲六八銀△二四角なる▲二五金打△同馬▲同飛と取つて後に飛車は九五へ廻つて成り込めば良いのであります

でありまして上手方は金一つでありますから飛車の廻りを防ぐことは出來ません八五歩と突けば、同飛、八四金打、八六飛にて次には九一角打があるし、又八五、六五へ金を打つても七七桂と上つて良いのであります

▲九〇八飛の變化二　又此時△七三銀と上る時は▲九三香なるのです若し九二香なる時は九五歩打にて其時八四角と切つても同銀にて飛車が直なることが出來ないからであります△九五歩打▲八四角と切る△同歩と取る外ありません、若し同銀と取ると八三成香八五銀九五飛、七六銀、九二飛なる、五二金、七三成香にて詰が一層早くなります▲八三成香は銀を攻て飛車がなる手で△六二銀▲九五飛△六八玉▲九二飛なる△五二金▲七二成香にて下手方の勝であります

五枚落

右桂落　向上手方　手前下手方

一

五枚落を指すには下手方は六枚落の如く端から崩するが良いですが右桂落は上手方の右端が手薄いから右端を攻るのが下手の利益であります

最初上手方△七二金は右端が手薄いから其堅めを先にしたのでありまず▲七六歩は前にも申した通りの意味であります△八四歩は上手方が力強く指したので次に金が上る意味を含んで居ります▲六六角△八三金▲八六歩は次に飛車が八八へ廻つて八筋九筋から破らうとするのであります△八二銀は右端の防ぎに上る▲八八飛と廻る△七四歩は銀が上る爲めでありますが若し上手方茲で七四金と上れば下

手は七七桂にて位勝であります▲九六歩は九筋より攻る手であります△七三銀▲九五歩と指すと上手方は愈よ敗れが近くなつて來たが六四歩と突けば五六歩と突て居られ又六四銀と上れば七七桂と上られて位負でありますから此所は棄て置て樣子を見る爲め△四二玉と操り玉を堅めて居りますと▲七七桂にて下手の勝であります上手は矢張△三二玉

▲八五桂の局面

					金		桂	
					銀	玉		
歩	桂		金		歩	歩	歩	歩
			歩	歩				
歩								
			歩	角	歩			
				歩		歩	歩	歩
	飛				銀	玉		
香		金	銀		金		桂	香

持駒　△歩　▲歩

と寄る下手方は此時最早八筋九筋から攻立てゝ行つても良いのですが上手からは指して來る手も無いこと故▲四八玉と操り玉を堅める△四二銀▲三八玉と寄る△六四歩は別に良ひ手も無いから指したので桂が飛んだ塲合に角の頭を突かうとする位の意味です▲五六歩は角の引塲を豫め作つて置たのです△五四歩も別に良い手が無いから塲合に依つては銀の出る準備でもありますが下手方は我玉の堅めは良し最う破る時が來たので▲八五歩と指して良いのであります上手は△同歩と取らなければなりません若し上手方が同歩と取らずに外の手を指したならば下手は八四歩と突掛け其時同銀同角と切つて仕舞へば同金同飛にて次に八二へ飛をなゝり八四へ歩を打つてなつて寄せて行けば下手の勝であります扨て▲同桂と行くと此時上手方は銀を引けば八四へ歩を打たれ又八四銀と上れば九三桂なると指される

故△八四歩と打ち角筋を止めると下手方は▲九三桂なる△同金▲九四歩にて全く下手方の勝あでります

二

本局の指方も前同樣の心得にて指せば良いのでありますから諄々しき所は省き唯肝要なる塲合の說明を致します

△七二金▲七六歩にて次に△七四歩は前の指方と違ひこれは金銀が上る爲めです▲六六角△八二銀▲九六歩△七三金▲九五歩と指すと上手は六四金と上つて角の頭を攻むるか又は八四歩と突て角筋を止めるかの二つの手となります

▲九五歩の變化一　此時上手方△六四金と上つたならば下手は七七桂と上つても良いのでありますが金が五六へ來たとても何でもあり

ませんから▲九八飛と廻るのです此九八飛は良い手でありますが若し飛を廻らぬ内に九四歩と突くと同歩同香六五金と指され角が逃げると九三歩打にて香を取られるから不可ません△六五金▲七七角と引くと金が七六へ追蒐て來たならば五五角と出る手があり去りとて上手は端を防ぐ手段もありませんから△五二金と上り一は玉の堅めとし二には右端の防ぎにすると下手方は▲九四歩と指し△同歩▲同飛△九三歩打▲九五飛と引くのです此飛は九六九八へ引ては不可ません、又七四飛と廻つても六一玉と寄られ其時九五角と指しても六四金にて飛車を取られるし、又七四飛、六一玉、九三香なる、同銀、七三飛なるにても八一香打にて飛車はなつたばかりで働く事が出來ません、其故に九五飛と引て先手を取つたのです△七五歩▲九二歩打にて上手の右端は全く敗れたのであります、何故かと云ふに七六金と上れば五五

角と出られるから△七六歩▲八八角と引かせて△六四金と引くと▲九一歩なるにて次には▲八一と▲八三飛なるにてヂリ〳〵と寄せられます

▲九五歩の變化二　此時上手方△八四と受たならば下手方は▲八六歩と指すのです、次に八三銀と上つては八五歩と突かれて破れますから△八三金とよる▲八八飛と廻るのです此時上手方は五二金と上つて

▲九二歩打の局面

持駒　△なし　▲なし

				玉		銀	桂	
歩	銀			金				
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩
飛		歩	金					
		歩						
	歩	角	歩	歩	歩	歩	歩	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香

右端の防ぎに行くか又は四二玉と操つて玉を先に逃げて置くかの二つであります

▲八八飛の變化一　△五二金と上る時は▲八五歩と突き△同歩▲同飛と進み△八五歩と打たせて▲同角と切つて良いのであります此角切りは餘り烈しいやうではあるが上手方は歩切れではあり角一つ渡したとて少しも差支ありません△同金▲同飛にて上手は歩切れで防ぎがないから△五五角と打つて銀を繫ぎ又時機を見てならうとする

▲八五飛と引くと上手は角を六四又は七三へ引てはなることも出來ず且八二歩と打たれる手があるから△七五歩と指しますこれは若し同飛と來たならば九九角なる七二飛なる五五馬と引く含みであります下手方は同飛とは指しませんが下手方は同飛とは指しません△六六金打△七三馬▲八四歩打にて宜しいのであります

▲八八飛の變化二　又此時上手方△四二玉と操つて居たならば下手方もゆる〳〵▲七七桂と上る△五二金▲八五歩△同歩▲九四歩△同歩▲八五桂△八四歩打▲九三歩打にて矢張上手は防ぎがないのです何故かと云ふに九一銀と引けば五五角と出られ又八五歩と指す時は九二歩なる、七三銀、九四と引き下手方十分の勝であります

五枚落　左桂落

向上手方
手前下手方

五枚落の左桂落は上手方の左端が手薄いから此端から攻るのが下手方の利益であります

△三二金は左端が弱いから備へをしたのでありますが次に下手方は角筋を開けません其れは角を使ふよりも飛香銀で早く破る法がある

からでありまして▲一六歩と突くのです△二二銀▲一五歩と指す△二四歩と突くのは次に二三へ金が上つて下手方より一筋の歩を切らせない爲めであります例へば茲で上手方二四歩と指さずして五二金と指すと一八飛、二四歩、一四歩、二三金、一三歩なる、同銀、一二歩打にて直に破れるのであります▲二六歩は端の歩は切れないから飛先より仕掛けたのです△二三金は一筋二筋の防ぎに上つたのでありますが下手方此時▲三八銀と上ると△三四歩▲二七銀△三三銀▲三六銀と上つて此端は破れるのでありますが此塲合上手方の指す手としては五二金と上つて左端の防ぎに來るか又は六二玉と操つて居るかの二つであります

▲三六銀の變化一　此塲合は最早上手方は左端の防ぎは無いのでありまして△六二玉と操つて居ると下手方は先づ▲二五歩と突き△同

歩と取らせ次に▲一四歩と突くとこれも△同歩と取らなければなりません其時▲二五銀と進むと上手方は二四へ歩を打たなければ下手より打たれるから△二四歩と打つ▲一四銀△同金▲同香と進みて次には下手には香をなつて寄せて飛車をなり込むことが出來るし上手には如何樣にしても防ぎがないのであります

▲三六銀の變化二　又此時上手方△五二金と上つて左端の防ぎに來たならば下手方は二五歩と突ても破る事は出來ますが緩々と指して▲七六歩と突き角筋を開けます上手方は更に恐るべき敵に睨まれましたから△四四歩と止めなければなりません、其時▲二五歩と突くとこれは同歩と取れば前申した通りでありますから△四三金と上る▲二四歩と突くと上手は同金と取る手と同銀と取る手の二つに分れます

▲三六銀の變化中▲二四歩の變化一　此時上手方△同金と取ると▲一四歩と突くのです△同歩▲二五銀△同金▲同飛△二四歩打つ、此時下手方は飛車を引ては直に先手が取れませんから▲八五飛と廻り△七二銀と受けさせて置て▲一四香と指して勝であります

同變化の二　▲二四歩の時△同銀と來た場合には下手方は▲四六歩と突て行きますこれ

▲三六銀の局面

持駒　△なし　▲なし

	桂	銀	金	玉				
歩	歩	歩	歩	歩	歩	銀	金	歩
						歩	歩	
						銀	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		
	角						飛	
香	桂	銀	金	玉	金		桂	香

は次に四五歩と突て角をならうとする手であります上手方は此時三三金右と寄るか又は五四歩と突て角筋を防ぐかの二つに分れます▲四六歩の變化一　△三三金右と寄つたならば下手方は▲二五歩と打ちます△三五銀▲同銀△同歩と取る下手は此時二四銀と打つては不可ません若し二四銀と打つと二金、三三銀なる同金にて却つて崩れるのが遲くなりますから此場合は▲二四歩と突くのです△同金左と取る▲四四角と出ると同金とは取れませんから△四二玉と上る▲三三角なる△同玉と取らせて▲四四金打にて良いのであります

同變化の二　▲四六歩の時△五四歩と突たならば▲四五歩と突掛る△五五歩▲同角△五四金▲七七角△五五歩と打つて角筋を止ると▲八六角と指す△六四歩と突く▲四四歩と突て行きますと此歩は金で取ることは出來ないから△四二玉にて歩のなりを防ぐと今度は▲四

八飛と廻るのです△三三金▲二五歩打△三五銀▲同銀△同歩▲四三銀打△五三玉▲五四銀なる△同玉▲四六金△六三玉▲五五金△五二銀打▲六四金△六二玉▲五四銀にて全く下手の勝となります

四枚落

向上手方
手前下手方

四枚落を指す下手方の心得は最初両端を攻て上手の駒を左右に散せて後に崩すのが良いです、上手方は端に香がないから何う受ても崩れるのであります

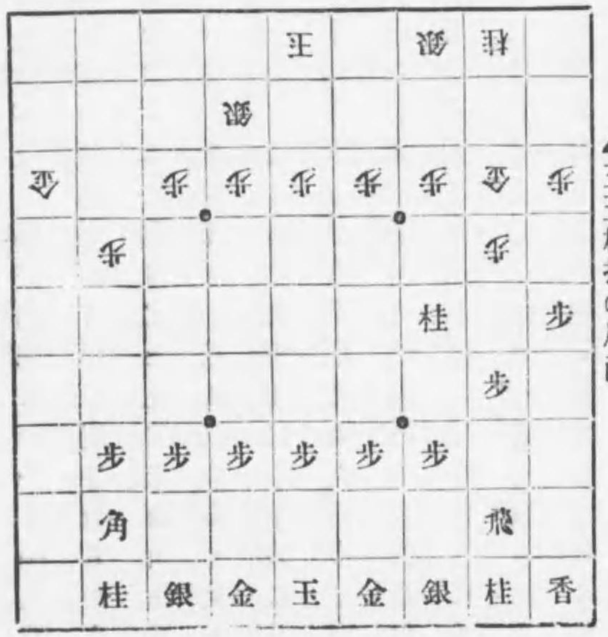
△六二銀は下手方の攻方の模様を見るのでありまして右端から來る時は銀は七四歩を突て七三八四と上り又飛道より來る時は五四歩を突て五三四四と上る意味であり、次に下手方は先づ上手の左端より攻め▲一六歩と突く△三二金▲一五歩にて上手方△二四歩と突くのハ、若し此歩を突かずに置くと二三へ金が上る事が出來ないから一八飛と廻り一筋の歩を換り後に一二へ歩を打込まれて早く崩されるからであります扨て下手方は今度は▲九六歩を指すと△七二金▲九五歩△八四歩と突くも同じ意味あでります、此時下手方は▲二六歩と突きますと上手方は含みの通り△二三金と上ります、此形では下手方に若し桂があれば三五へ打つて良い手になりませう其所で▲九四歩と突掛けるのです△同歩▲同香△九三歩打▲同香なる△同桂▲九四歩打と指すのであります、茲で上手が若し八五桂と上れば九三歩なるにて九五香打ならは九九歩打と受られ次にと金を引かれ桂香を取られる手順となりて大に惡く又八五桂九三歩なるの時棄て置てもと金にて香を取られて且と金を殘す故上手方は八五桂と上らずに△八三金と

上る外に手は無いのです▲九三歩なる△同金と取らせて▲三五桂と打つて下手の勝であります が茲で上手方二二金と引く手と三四金と上る手の分れがあります

▲三五桂打の變化一　此時上手方△二二金と引くと下手方は桂が四三へ飛んでは銀は取つても飛車がなる事が遲くなるから▲二五歩と突く△同歩▲同飛と進む△三四歩▲二三

▲三五桂打の局面

持駒　△香、歩　▲歩



桂なる△三三桂▲同成桂△同金▲二一飛なるにて良いのであります 同變化の二　▲三五桂打の時△三四金と上る時は下手方は▲四三桂ならずと指すのです△四二玉▲三一桂なる△同玉と取る其所で下手方は二三銀と打込んでも良し又は成るべく駒を使はぬとして▲一四歩と突き△同歩と取らせて▲一二歩と打つのも却々に良い手であり まして十分の勝であります

編者曰　四枚落迄の將棋は以上說く所に據つて十分御習熟あらば如何なる强手に向つても勝てるやうになります

二枚落

向上手方
手前下手方

二枚落の將棋は上手方は成る可く金銀を換へないで下手方の飛角の働きを止めやうとして指すのでありますから下手方は飛角を良く働

かすのが肝要であります

一　上手方五二玉操

此定跡は最も普通に行はるゝ手でありまして下手方に紛れが多い將棋でありますから隨つて之れに習熟する時は二枚の力は大について來ます

△六二銀▲七六歩△五四歩と指すのは普通の手でありまして次に金又は銀が上つて四四又は五五にて角筋を止めやうとする意味を主に含んで居ります▲四六歩は上手から五三へ金又は銀が上つて四四歩と突かれない爲であります△五二金右は次に五三より繰上つて角筋を止めて十分に指せないとする金であります▲四五歩△五三金▲三六歩は角筋が通つて居る時は三四へ突蒐る意味です△六四金は四四

歩を突て角を止る事が出來ないから下手方が三五歩と指して來たならば五五歩と止める意味です下手は三五歩と指しても五五歩と指されるから此時▲四八飛と廻るこれは四筋から攻て巧みに飛角を働かす手であります△五三銀▲三八銀は四六迄上つて五筋及び四筋三筋を攻る爲です△三二金は陣中の備へであります▲三七銀△四二銀上る▲四六銀△六五金は金が六四へ居ても五五歩と突て角を止る事が出來ないから進んで行つて下手を紛らかさうとする手です▲五八金右△五二玉▲七八金△六四銀は三五歩と突かれた時に五五歩と突く爲です▲六九玉△五三銀上る▲六八銀は之にて下手の駒組は十分に出來たのであります△八四歩は角の頭へ突掛けて歩で取らせて七六へ金が進む手でありますが下手は最早十分に駒組が出來たから▲三五歩と突て攻て行つて良いのでありまして上手方の負に歸するので

あります

▲三五歩の變化一　此時上手方△八五歩と突くのは前に申しました意味ですが下手方▲七七金と上ると棄て置く時は六六歩と突かれるから△五五銀と指す▲同銀△同歩▲八二銀打にて上手よりは仕掛の手無く下手方は桂香を取り種々仕掛の手があつて勝であります

同變化の二　▲三五歩の時上

▲三五歩の局面

手方△七四歩と突く時は下手方は▲三四歩と指す上手方は同歩とは取る事も出來ず又棄てゝも置けませんが五五銀と出る時は前の通りであるから△五五歩と指す▲六六歩△七六金▲六五歩と突くと同銀と取る手と七三銀と下る手の二つに分れます

▲三五歩の變化中▲六五歩の變化一　此時上手方△同銀と取る時は▲三三歩なる△同金▲三四歩打にて上手方此時同金にても又は三二金にても五五角にて下手方の勝であります

同變化の二　▲六五歩の時△七三銀と引く時は▲五五銀と指す此時上手方五四歩と打つても四六銀と引かれて角の筋を開けるから△八五歩と指す下手方は此時△九八香と上るのです何故かと云ふに若し香を上つて置かぬと八六歩、同歩、八七歩打七九角と引いて角の利きが無くなるからであります△三四歩と取る▲七二歩と打つ△六二銀右

▲四六銀と引く△三三金▲七一歩なる△同銀▲五五角と出ると茲で上手方は八六歩と突て行くか又は六四歩と指すかの二つに分れます

▲五五角の變化一　此時△八六歩と突く時は▲同歩△八二歩打▲七二歩打△五四歩打▲三三角なる△同桂▲七一歩なるにて宜しいのでありますす

▲同變化の二　▲五五角の時△六四歩と受る▲同歩△七三桂▲三五歩と打ちますと上手は五四歩と打つか又は五四銀と出るかの二つに分れます

▲三五双打の變化一　此時△五四歩と打つ時は▲三三角なる△同桂▲六三金打△四二玉▲三四歩にて良いのであります

▲同變化の二　又此時△五四銀と指す時は▲三四歩△五五銀▲同銀△三四金▲五六銀△六二歩打▲六三歩なる△同歩▲五三銀打△六一

玉▲六三銀なる△四一角打▲六二歩打△五一玉▲七三成銀にて必死であります

▲同變化の三　▲三五歩打の時△同歩と取る時は▲同銀△三四歩打▲三三角なる△同桂▲六三金打△四二玉▲四四歩にて下手方全くの勝であります

二　五五歩止め

五五歩止めには金止めと銀くめとがありまして本局は金止めの定跡であります何れにしても上手方は五五にて極力受止め下手方より指させまいとするのでありますが下手方順序良く指す時は五五歩を唯取つて仕舞つて破る事も出來るし又上手方にて飽く迄五五歩を取ら

れまいと防ぐ時は外に破れの場所が出來て來るのであります

△六二金▲七六歩△五四歩▲四六歩△五三金▲四五歩と指すのは前に申す通りの意味でありますが此時上手方△五五歩と指します下手方は此時同角と取る手もありますが五四金八角、四五金にて歩の換りとなり紛れる所がありますから順序良く駒を組立てゝ後に

▲三七銀の局面

至りて五五歩を唯取る含みにて▲四八飛と廻ります△五四金▲三八銀△五二金▲三六歩△五三金上る▲三七銀と上つて行きますと茲で上手方四四歩と指すか又は六四金と上るかの二つに分れます

▲三七銀の變化一　此時上手方△四四歩と指す時は下手は▲四六銀と上つて行きます△四五歩▲同銀△四四歩打▲五四銀△同金▲四六金と打ちますと上手方は次に五五金と出られては歩損となつて破られますから△六四金と打つより外はありません下手方は五五で金銀を換つて歩徳になれば勝であります▲七八銀と上る△四二銀▲七七銀と上ると上手方は次に下手に六六銀と上られて五五を破られてはならぬ故△六五銀と指す下手方は六六銀と上る前に▲五八金右と上つて玉を堅める△四三銀▲六六銀△同銀▲同角にて上手は五五を守る爲め△六四銀と打たねばなりません其所で下手一旦▲八八角

と引きます△四二玉▲六六銀打にて五五を破る手になります此場合でも上手方は五五の守りの金銀は動く事が出來ませんから仕方無しに△六二銀と上る下手方は此時五五銀と指しても良ひのですが大事を取つて▲三七桂と上る△五三銀上る▲五五銀△同銀▲同金△同金▲同角△五四金打▲八八角と引て結局歩徳となりました上手は歩切れとなりまして五五が止りませんから△六四銀と上る▲二二銀打△三二玉▲一一銀なるにて十分に下手勝であります

▲同變化の二　▲三七銀の時上手方△六四金と上ると下手方は矢張▲四六銀と上る△六二銀▲五八金右△五三銀▲七八銀は前に申した通り五五を破りに行く銀であります△四二銀上る▲七七銀と上る△六五金右は若し茲で金が上らぬ時は六六銀と上られて五五歩を取られるからであります▲六六銀と上る此時上手方同金と取れば前に述べたやうな手順にて五五にある歩を取られるから此處△五六歩と指す▲同歩△同金▲三七桂と上る此桂は若し上らずに居ると四六金同飛四四歩同歩四五銀打の手があるからであります△六四銀▲五七歩打△四六金▲同飛にて此時上手方二八銀打及び五五銀打の二つに分れます

▲三七銀の變化中▲同飛の變化一　此時上手方△二八金と打つ時は▲四八金よる△一九銀なる▲三五歩△四一玉▲三六飛△三二玉▲三四歩△五五歩打▲四六金打△五一香打は五五が破れるからであります▲三三歩なる△同銀▲二五桂△三四歩打▲三三桂なる△同玉▲三五歩打△同歩▲同金△四二玉▲二六飛△三一桂打▲二二銀打にて上手方凌ぎがありません

▲同變化の二　▲同飛の時上手方△五五銀と打つ時は▲同銀△同銀

▲四八飛△四六銀打▲四七金打△同銀▲同金にて上手方六二玉と操るか六五金と上るかの二つに分れます

▲右變化の一　▲同金の時上手方△六二玉と操る時は▲五六歩△六四銀にて上手方は金一つで指して來る事が出來ないから▲二二銀と打つ△六五金上る▲二一銀ならず△三一金打▲三二銀打△五五歩打▲三一銀ならず△同銀▲五八飛にて上手方は五六歩と取れば三三角となられるから△五六金と取る▲同金△四七銀打▲五五金△五八銀なる▲同金△五五銀▲同角△三九飛打▲六八玉△八九飛なる▲五四歩打にて下手の勝であります

▲同變化の二　▲同金の時△六五金と上れば▲五四銀打△六四金引く▲六五銀打△六二玉▲五六歩△五四金▲同銀△六四銀▲四四歩△同歩▲同角にて此時上手方五三歩と打てば四三歩と打たれるから△

五三銀と打つ▲二六角△四四歩打▲五三銀△同銀上る▲三五銀打△四三銀打▲四五歩打△同歩▲同桂△四四歩打▲五三桂なる△同銀▲四五歩打△同歩▲四四銀打△同銀▲同銀△同銀▲同角△五三銀打▲五一銀打△五二玉▲四一銀打△四三玉▲五三角なる△同玉▲五五銀打にて下手方全く勝であります

三

此局は手傳と云ふ定跡であります手傳には上手方銀が立つ手と金が立つ手とがありますがこれは銀が立つ指方であります、手傳は下手方の最も力強い指方でありまして此指方を習熟する時は上手は二枚落では到底指すことが出來なくなります

△六二金▲七六歩△五四歩▲四六歩△五三金▲四五歩と指すのは前

にも云ふ通り普通の順序でありまして次に上手方は四四では角が止りませんから△六四金と上ります、下手方は五五歩と指されては手傳に組む事が出來ないから▲五六歩と突く△六五金と上ると七六の歩は取られても良いが五六歩は大事であるから▲五八飛と廻る又上手方は七六の歩は取るやうに見せても今取つて行く時は五五歩と突かれますから△六二銀と指します、下手方は角筋は通つて居ります、故▲三六歩と指して行く△三二金▲三五歩△二四歩は若し此の歩を突かずに置くと三四歩と突かれ二二銀、三三歩なる、同銀三四歩打二二銀と引き角の爲めに金銀桂香が遊び駒となつて到底指す事が出來ません然るに二四歩と突て置く時は三四歩と指されても二三金三三歩なる同桂、三四歩と打たれても同金と上つて受ける事が出來ます故茲で二四歩と突たのです▲六八銀は次に五七四六と上つ行く銀であります

△五三銀▲五七銀△五二玉▲三八銀は次に四七へ上る銀であります△七六金▲七八金△六四歩は玉の上る意味と又六五、六六と指して一時角筋を止める意味の歩であります▲四七銀△六三玉▲四六銀左△七四歩▲四八玉△七三桂▲三八玉△四二銀上る▲四八金△八四歩▲五五歩△同歩▲同飛△五四歩打▲五六飛△七五金▲五九飛と引きます△六五歩は塲合に依つて六六歩と突て角を止める爲めです▲三七桂△八五歩▲二六歩△九四歩▲一六歩△九五歩▲一八香△七六金▲九八香にて下手方十分の駒組が出來上つたのであります尤も▲一六歩と指す手にて三四歩と仕掛ける手はありますが別に急がないでも上手からは指して來る手がありませんから茲まで指して組立てたのであります扨て此駒組では上手方は八六歩と指して行くか又は一四歩と突て下手方の指して來る模様を見るかであります

▲九八香の變化一　△八六歩
▲同歩△八七歩打▲九九角△
九六歩▲同歩△同香▲同香△
九八歩打▲七七角△同金▲同
桂と指すと上手方は角一つで
何うすることも出來ませんが
桂を攻る爲め△七五歩と突く
▲五六飛と上ると上手方は殆
んど指す手がありません角を
打込む時は下手より金を打た
れて取らるのみでありますか
ら△九九歩なる▲七二歩打に

持駒　△歩　▲歩

▲九八香の局面

て此時上手方同玉と取れば七四歩と打たれる故△九八と引く▲七
一歩なる△八八歩なる▲六八金△八七と▲七二と△七七と▲七三と
△同玉▲七七金△六四桂打▲五八飛△七六歩▲七五香打△六二玉▲
七八金△八七歩打▲五五歩打△同歩▲同銀△五四歩打▲同銀△同銀
▲同飛△五三銀打▲二四飛にて下手方の勝であります
▲同變化の二　▲九八香の時△一四歩と突て居る時は▲三四歩△六
六歩▲同歩△三四歩▲七二歩打△同玉▲五五歩打にて上手方は同歩
と取る手と六三玉と上る手との二つに分れます
▲九八香の變化中▲五五歩打の變化一　此時△同歩と取る時は▲同
銀△五四歩打▲同銀△同銀▲同飛△六三銀打▲五九飛△五四歩打▲
六七銀打△同金▲同金△五三銀▲六五歩△三三桂▲六六金△八六歩
▲同歩△八七銀打▲七九角△九八銀ならず▲七五歩打△同歩▲七四

歩打△同銀▲八四金打△八三銀△同金△同玉▲七五金△七四歩打▲八三銀打△七二玉▲七四金△六五桂▲四六角△五五香打▲五六歩打にて下手の勝になります

▲同變化の二　▲五五歩打の時△六三玉と上る時は▲五四歩△六二銀▲五五銀△五二歩打▲六五歩にて同桂と上れば六六歩と打たれ、又六六歩と打つても同銀と引かれて上手方の負であります

四　鸚鵡返し

此局は古流の指方にて下手は上手の指す通りの眞似をして終ひに上手方を手詰りにして勝つ手であります

△六二銀▲六八銀△五四歩▲五六歩△五三銀▲五七銀△七二金▲七

八金△三二金▲三八金△四二銀上る▲四八銀△四四歩▲四六歩△三四歩▲三六歩△四三銀▲四七銀△六二玉▲六八玉△一四歩▲一六歩△九四歩▲九六歩△三三金▲三七金△二四金▲二六金△三三桂▲三七桂△七四歩▲七六歩△六四歩▲六六歩△六三金▲六七金△七三歩▲七七玉△八四玉▲八六玉にて上手方は手詰りとなりましたが下手方は飛角があ

るだけに仕掛けの手があります勝つ筈であります

飛香落

向上手方
手前下手方

飛香落は上手方飛香と左香車とを落した將棋でありまして飛車落と餘り變らぬ將棋でありますが上手方左端に香が無い爲め下手方より種々其痛みを指す手があります、此將棋を指すには下手方は角を換らうとして指すもので角を換る時は其打込の爲めに上手方駒組に不都合を來しますから上手方は角を換らせまいと指すのですが左香が無い爲め飛車落よりは早く痛みを指されます

一

△三四歩▲七六歩△四四歩は角を換らせまいとするので次に▲二六

歩は居飛車掛りにて攻る手であります△三二金は飛先を防ぎ端の備へをする金であります此處三二金と上らないで四二銀と三三銀と飛先を受る手はありますが其れは次の局にて說きます▲二五歩△三三角は飛先の歩を切らせない考です▲三六歩は桂が上つて攻る爲と今一つは後に至り上手より三五歩と突かれて紛れを指されるから先に突たのです△四二銀▲四八銀△四三銀▲五六歩△五四歩▲五八金右△六二玉は駒組の順序でありまして次に▲一六歩は端へ仕掛る手順であります△七二玉▲一五歩△六二銀▲三七桂△九四歩▲九六歩△五二金▲七八銀は次に七九へ角を引く意味です△七四歩▲七九角△四五歩▲七七銀△五五歩▲同歩△同角▲六六銀にて上手方は角を四四、二二へ引くか又は八二へ引くかの三つに分れます

▲六六銀の變化一　此時上手方△四四角と引く時は▲四六歩と指す

△同歩▲同角△七三銀▲四五歩打△二二角と引くより外ありません其所で下手方▲一四歩と突て端の痛みを指して良いのであります△同歩▲一三歩打△同桂と取る此時下手方一四香と指す手もありますが其れよりも飛車をなる趣向を立て▲二四歩と指す△同歩▲同飛△二三歩打▲一四飛△一二歩打▲一六飛と引くと次に上手は一四へ歩を打たれて桂

▲六六銀の局面

持駒　△歩　▲歩

を取られるから△二四歩と突く▲一四歩打△二五桂▲同桂△同歩▲一三歩なる△同歩▲同角なる△同角▲同飛なる△二二角打▲一二龍△一一歩打▲一四龍にて次に上手方△六四歩と突くのは六五歩と突て桂打の趣向を立るのでありますが其時下手方▲四四桂打にて同銀と取る時は五四へ角を打たれるから△四二金右と寄る▲二四歩打にて下手の勝であります

▲同變化の二　▲六六銀の時△二二角と引きますと下手方は直に▲一四歩と端を指して良いのです△同歩▲一三歩打にて此時同桂と取る時は前の手と同じですから△同角と取る▲同角なる△同桂▲二四歩△同歩▲同飛△二三歩打▲一四飛△一二歩打▲一六飛△二四歩▲一四歩打△二五桂▲同桂△同歩▲一三歩なる△同歩▲同飛なる△二二角打▲一二龍△一一歩打▲一四龍△六四歩▲二四歩打△六五歩▲

二三歩なる△四四角▲五六桂打△五三角▲五五銀△四二金左▲一一龍△五一歩打▲五四歩打△二六角▲二七歩打△四八角なる▲同玉にて上手からは指す手が無く下手からは桂を飛ぶ手もあり又二四より角を打つ手もあつて十分勝であります

▲同變化の三　▲六。六銀の時△八二角と引く時は矢張端を指して▲一四歩△同歩▲二四歩△同歩▲同飛△二三歩打▲一四飛△一三歩打▲一六飛にて次に一二へ歩を打たれる手があるから△二二金とよる▲五五歩打は桂が上る爲です△五三銀▲二。五桂と上ると上手は三五歩と指すか又は四四銀右と上るかの二つに分れます

▲二。五桂の變化一　此時上手△三五歩と指す時は▲同角と出る△三四銀▲一三桂なる△三五銀▲二二成桂△四四銀引く▲二一成桂△五五銀▲一二飛なる△五一歩打▲六五桂打△六四銀引く▲五三桂なる

△同銀▲五四歩打△六二銀▲五三銀打にて良いのであります

▲同變化の二　▲二。五桂の時△四四銀と上る時は▲一三桂なる△同桂▲同角なる△同金▲同飛なる△五五銀▲五。三歩打にて此時上手方同金と取る手と六二金とよる手との二つに分れます

▲二。五桂の變化中▲五。三歩打の變化一　此時△同金と取る時は▲一二龍△五二歩打▲六五桂打△六四銀▲五三桂なる△同銀▲五四歩打△六二銀▲四二金打△一一歩打▲二一龍△五四銀▲五三歩打△同歩▲五二金と寄せて下手の勝であります

▲同變化の二　▲五。三歩打の時上手方△六二金とよる時は▲一二龍△六六銀▲同歩△五七歩打▲同銀△三七角なる▲四八銀引く△六四馬▲五二金打△六一銀打▲六二金△同銀▲六一銀打△同玉▲五二金打△七二玉▲六二金△七三玉▲七二金△八四玉▲七七桂打△七三桂

打▲八一金△八八角打▲九一金△九九角なる▲八六香打△八五香打△同香▲同桂△八六香打にて下手方全勝であります

二

此局は下手方矢張居飛車掛りにて上手方三三銀と立つて受るのでありますが前の局よりは上手方の指す手が却つて狹いのであります

△三四歩▲七六歩△四四歩▲二六歩△四二銀▲二五歩△三三銀と上がると上手方は受るばかりで此方へ指して來る事が無いから下手は直に▲一六歩と指して端へ掛ります△三二金▲一五歩△三一角と引くのは一筋の歩を換つて下手より一二歩と打込れる時は角が動く事が出來なくなるから引いたのであります▲一八飛△六二玉▲一四歩△

同歩▲同飛△一三歩打▲一八飛と引くと次に一二へ歩を打たれる手があるから△二二金とする▲四六歩と指す△五二金▲四八銀△七二玉▲四七銀△五四歩▲五六銀△四三金▲五八金右△六二銀▲三六歩△七四歩▲六八玉△五三銀▲二八飛△六四銀▲三七桂△七五歩▲四五歩にて此時上手方同歩と取る手と五三角と上る手との二つに分れます

▲四五歩の局面

持駒　△なし　▲歩

香	桂	銀	金	玉	歩	歩	桂	香
	飛		歩	歩			角	
歩	歩	桂	歩	歩	歩	歩	歩	歩
	歩		歩		銀	歩		
		歩		歩			玉	
	金	銀	歩	金	歩	歩	桂	香
		角						

▲四五歩の變化一　此時上手方△同歩と取る時は△二四歩と指し△同歩と取らせて▲二五歩と打つので此れは繼歩と云ふ良い手であります此時上手方若し同歩と取れば同桂にて銀を取られまいとすれば一三桂なる故二四歩と打つても三三桂なる同金よる四五銀にて直に破れますから二二へ歩を打つて受る爲め△一二金とよる▲二四歩△二二歩打▲二五桂△四四銀▲一三桂なる△同桂▲一四歩打△四六歩▲四五歩打△五五銀左▲一三歩なるにて宜しいのであります

▲同變化の二　▲四五歩の時△五三角と上ると▲二四歩△同歩▲二五歩打にて此時上手方三二金とよれば二四歩と取られ二二歩打一二歩打と指される故矢張前のやうに△一二金とよる▲二四歩△二二歩打▲二五桂△二四銀▲一三桂なる△同銀▲同香なる△同桂▲一四歩打△二三歩▲一三歩なる△同金▲四四歩△同金▲一八飛△一七歩打

▲四八飛△五五歩▲四五銀△同金▲同飛にて此時四四銀打にては同飛と切られ同角五六桂打と云ふ手がありますから△四四歩と打つ▲一五飛△一四香打▲五五飛△同銀▲回角△六四銀打▲四六角△二四歩▲五四銀打にて下手の勝であります

三　上手方二三金止め

△三四歩▲七六歩△四四歩の時▲一六歩と指すのは飛車が一八へ廻つて一筋の歩を換り一二又は一三へ打込んで端を崩す含みであります△三二金▲一五歩と指すと上手方は普通ならば此處で四二銀と上るのでありますが端歩を換らせまいとする爲め△二四歩と突きます と下手は飛車を一八へ廻つても端歩が換られないから▲二六歩と指

す△二三金▲三八銀△三二銀▲二七銀△四三銀▲三六銀△三三桂▲六八玉と操るのは良い手でありまして玉を操つて置けば次に十分なる攻手に出る事が出來ます上手方は此時五四歩と突て居るか又は五二金と上るかの二つに分れます

▲六八玉の變化一　此時上手方△五四歩と突て居ると下手方は▲一七桂と上るのです此桂上りは最初の中にても上手

▲六八玉の局面

方早く五四歩と突たならば上つて置くべき桂であります△三一角▲二五歩△六四角▲三八金△二五歩▲同桂△二四歩打▲一三桂なる△同金▲一四歩△二五桂▲一三歩なる△三七桂なる▲二四飛△三八成桂▲二三とにて下手の勝であります

▲同變化の二　▲六八玉の時△五二金と上ると下手方は▲四六歩と指す△六一玉▲五八金右△七二玉▲七八玉△六二銀にて▲一七桂と上ります△五四歩▲二五歩△同歩▲同桂と取ると此時上手方二四歩と打つ時は下手方一三桂なるにて前に述べた手と餘り變りがない故此時△同桂と取る▲同銀△四五歩▲二二角なる△同金▲三四銀にて下手の勝あでります

飛車落

向上手方
手前下手方

飛車落の將棋を指すに下手方の心得可きは最初角を換らうとして指すことであります角を換る時は上手方は角を打たれると云ふ痛みがあつて十分なる駒組をすることが出來ません既に上手十分なる駒組が出來無いとすれば下手方を攻むことも薄く隨つて下手の勝となる道理であります

一

此局は下手方居飛車掛りにて最も利益ある指方であります

△三四歩▲七六歩△四四歩と指すのは上手方は角を換らせまいとするものであります尤も此處にて上手方三二金と上る手もありますが

次の局にて說きます次に下手方は四六歩と指して行くのは良く行はるゝ手でありますが此指方は下手の利益少なくして一枚落の力としては勝を見ることが容易でありませんから此局は下手に最も利益のある指方として飛先より攻め▲二六歩と突きます△三二金▲二五歩△三三角▲四八銀△四二銀▲五六歩△五四歩▲七八銀△四三銀▲七九角△四五歩▲七七銀△六二玉▲二四歩△同歩▲同角にて此時上手方四四角と上る手と二三歩打との二つに分れます

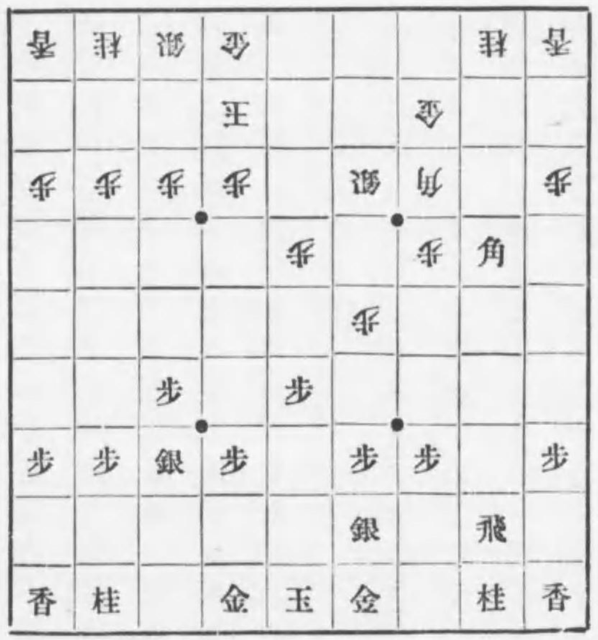
▲同角の變化一　△四四角と上る時は▲五七角と引きます此時上手方二三歩打と受る手は後に說く中にありますから此處は△二六歩と打ちます▲六六角△同角▲同銀△四四角打▲五七銀上る△一四歩▲六八玉△七二玉▲七八玉△六二銀▲六八金にて下手方十分の位であります上手方は如何樣にしても良い手が無く下手方は次に四六歩を

突て四四にある角を引かせて二六にある歩を取れば必ず勝てとなります

▲同變化の二　▲同角の時△二三歩打と指す時は▲三三角なる△同桂▲六八玉△七二玉▲七八玉△六二銀▲六六銀△五二金▲五七銀上る△五三銀▲五五歩△同歩▲同銀△五四歩打▲六六銀引く△四四銀右▲五六銀△三五歩▲六八金△七四歩▲一六歩△一四歩▲九六歩△

▲同角の局面

持駒　▲歩　△歩



九四歩と指すと下手方十分の駒組となりて上手よりは指して來ることが出來ません若し是迄及び此後と雖も上手方五二にある金を六三へ歩を突て上つて來たならば下手方は一五歩と突掛けて同歩と取らせて一二歩打、同香、二一角打の手が何時でもあります、扨て上手方は此塲合殆んど指す手も無いですが△八二角と打ちますと▲二六飛△三四銀▲六五銀右△五五歩▲七四銀にて次に下手方は八三銀と切つて六一角打の手もあります又上手方四三銀と引く時は六五角打の手もありまして勝であります

二

此局は俗に御神酒徳利といひまして上手方は角の換りを防がないで

下手方から換つて來れば一手の德をするし又換つて來ないなら此方から換つて行くといふ指方であります併ながら下手が順序良く指しますと上手は下手を紛らかすことも出來ず却つて早く崩されるのでありますが

△三四歩▲七六歩△三二金と指すは御神酒の手でありますが其時下手は▲四八銀と指すのです此時上手方四四歩と突けば普通の手でありますが△七二金と指します▲六八玉△五二玉▲七八玉△六二銀▲六八金△七四歩▲二二角なるは上手から換つて來れば一手の德をするのですが換つて來ないから此方から換つたのでず△同銀▲八八銀△七三銀▲七七銀と指すのは此銀は上手の眞似をして指せば良い銀でありまして例へば上手方六四銀と上れば六六銀と上り又上手方八四へ上れば此方も八六へ上り七三へ引けば七七へ引き上手方を手詰

りにする銀であります△三三銀▲五六歩△九四歩▲九六歩△一四歩▲一六歩△八四銀▲八六銀△七三桂▲五七銀△五四角打▲六六銀△四四歩▲七五歩△同歩▲同銀左△同銀▲同銀にて下手方宜しいのでありますが此後は若し上手より攻て來たならば下手は受て指せば良いのでありまして例へば上手方七六銀打ならば八八銀打と受けて上手方は手詰りであります又下手よりは七四歩打もあり又五五歩を突て五筋より攻る手もありまして十分の勝であります

三

此局は上手方四三金止めと稱し最も力の強い指方でありますが下手方順序良く指す時は矢張崩れるのであります

△三四歩▲七六歩△四四歩▲四六歩△三二金▲四八銀△四二銀▲四

七銀△五二金▲五六銀△五四歩▲四八飛△五三銀▲四五歩にて此時上手方同歩と取る時は同銀と進んで來られますから△四三金右と上る▲四四歩と突て行きます、此時上手方若し同銀と上り角を換らせまいと指す時は下手方は先づ三六歩と突て置き次に玉を七八迄操りて堅めをしたら桂が三七へ上り二五へ飛んで三三の銀を攻め角を換る含みで指せば良いのです依つて此場合は同銀と取らずに△同角と取つた手を說きます▲同角△同銀▲四五歩打△五三銀▲六八金△五二玉▲七七桂は五三の銀を攻て四四歩を突く含みであります此時上手方は三三桂と上るか又は六四歩と突くかの二つに分れます

▲七七桂の變化中

▲七七桂の變化一　此時上手方は△五五歩と上る△六四銀▲四四歩△四二金引く▲二一角と打ちますと上手方は五五歩と指すか又は四五歩打と受るかの二つであります

▲七七桂の變化中▲二一角打の變化一　此時上手方は△五五歩と指す時は▲同銀△同銀▲三二角なる△同金▲五四金打△四二歩打▲五三桂なる△六一玉▲五五金にて良いのであります

▲同變化の二　▲二一角打の時上手方は△四五歩打にて受る時は▲同銀△同桂▲同飛と指す、此時上手方三一銀打と受る時は四三桂打、二二銀、五一桂な

▲七七桂の局面

持駒　歩　角△角

香	桂		銀				桂	香
				王		金		
歩	歩		歩	銀	金		歩	歩
				歩		歩		
					歩			
			歩		銀			
歩	歩		桂	歩	歩	歩	歩	歩
				金	飛			
香	桂		銀		玉		桂	香

ると指されるから△四一銀と打つ▲四六桂打にて三三金左と上れば五四桂と指される故△六五銀と指す▲同飛△四七角打▲四三銀打△六二玉▲四二銀ならず△六五角なる▲四一銀ならず△三一金▲五四角なる△二九馬▲五二銀ならずにて下手の勝であります

▲七七桂の變化二　▲七七桂の時△六四歩と指し桂の上りを止める時は▲六六歩△四六歩打▲六五歩と突て行きますと上手方は五五歩と指すか又は同歩と取るかに分れます

▲七七桂の變化中▲六五歩の變化一　此時上手方△五五歩と指す時は▲同銀△四七角打▲三八角打△二五角なる▲六四歩△七二銀▲六五角△二四馬▲四四歩△四二金引く▲三二角なる△同金▲六五桂△四二銀▲五四銀にて宜しいのであります

▲同變化の二　▲六五歩の時△同歩と取る時は▲四六歩と指す此時

上手方若し三三桂と上る時は六五桂と上り次に四四歩と突て良いのです又此時上手三五角と打つたならば四八飛六四銀九六角打にて良いのです、其故上手方△二四角と打つ▲四八飛△四六歩打▲九六角打△六二玉▲四一角なる△四二金引く▲八五馬△七二銀▲七五馬にて上手方は駒切れ故下手方の勝であります

角行落

向上手方
手前後手方

角行落の將棋は上手方は角が無いから下手の角の利きを止めて働かせまいと指すものです隨つて下手方は角を巧みに使ふ事が出來たならば勝てる道理であります、又此將棋は飛車が換れば下手方の利益であります

一

△六二銀▲七六歩△五四歩▲五六歩△八四歩▲七八銀△六四歩▲六六歩△七二金▲六七銀△四二銀▲七八飛△七四歩▲四八玉△九四歩▲九六歩△五三銀左▲三八玉△四二金▲五八金左△三四歩▲三六歩△五二玉▲二八玉△八五歩▲七七角△四四歩▲四六歩△八三金▲三八銀△一四歩▲一六歩と組むのは上手方四二金操下手方美濃の圍ひにて指す角落將棋普通の定法でありまして是にて上手方は右に玉を圍ふか又は左に王を圍うて指すかに分れます

▲一六歩の變化一　此時上手方右へ玉を圍ふとすれば△七三桂と上る▲二六歩△八一飛▲二七銀△四三金▲四七金△三一飛▲五九角△六三玉▲三八金△三五歩▲同歩△同飛にて此時下手方三六歩と打つか又は二五歩と指すかの二つに分れます

▲一六歩の變化中△同飛の變化一　下手方此時▲三六歩と打つ△三一飛と引く、此時下手方は七五歩と指したい處でありますが若し七五歩と指す時は同歩、同飛、八六歩と指され此時同歩にても同角にても八八へ歩を打たれ又八六歩の時七七飛と引けば八五桂と指される手があるから七五歩と指しては不可ません▲八八飛と廻るのです△八一飛▲八六歩△

▲一六歩の局面

香	桂						桂	香
	飛		金	王	金		王	
	金			銀			歩	
歩		歩	歩	歩	歩	歩		歩
	歩							
歩		歩	歩	歩	歩	歩		歩
	歩		角	銀			歩	
			飛		金		玉	
香	桂				金		桂	香

持駒　香、歩

同歩▲同飛△八五歩打▲八八飛△八四金▲七七桂△二四歩▲四八角△三三桂▲三五歩△三四歩打▲同歩△同金▲三二歩打△三五歩打▲三一歩打△同飛▲六五歩△八三金▲六四歩△同銀▲八四歩打△八二金▲八五桂△同桂▲同飛△七三桂打▲八九飛△八五歩打▲七七桂打にて下手方は歩か徳になつて指し良いのであります

▲同變化の二　△同飛の時下手方▲二五歩と指すは力指しの將棋でありますが△三一飛▲二六銀△三四金▲三六歩と打ちますと上手方は四五歩と指せば三七桂と上られますから△二四歩と指す矢張▲三七桂と上る△二五歩▲同銀△同金▲同桂にて此時上手方二四銀と打てば二六歩打にて受られる故△二四歩と打つ▲二三歩打△二五歩▲二二歩なる△八一飛▲一一と△三三桂▲三五香打△三二歩打▲一二と△四三桂打▲三四香にて下手の勝であります

▲一六歩の變化二　此時上手方左へ玉を圍ふには△六三銀と上る▲二六歩△二四歩▲二七銀△八四金▲五九角△七二飛▲四八角△七五歩▲六五歩△同歩▲七五歩△七四歩打▲七六銀△七五歩▲同銀△同金▲同飛にて上手方は同飛と換るか又は七四銀と打つかの二つに分れます

▲一六歩の變化中▲同飛の變化一　此時上手方△同飛と取る時は▲同角△七九飛打▲五三角なる△同玉▲三八銀△二九飛なる▲六四歩打△同銀▲六一飛打△五二銀打▲八一飛なる△九九龍▲七六桂打△七五銀▲八三龍△六三香打▲六四歩打△七六銀▲六三歩なる△同銀▲六二銀打△同玉▲七三金打にて下手の勝となります

▲同變化の二　▲同飛の時上手方△七四銀と打つ時は下手方は▲七七飛と引きますこれは上手方には五二玉と操り二四歩を突てあるか

ら下手方は四筋及び二筋より仕掛るの含みであります△七五歩打▲二五歩△三三金▲三七桂と上る若し此時上手方は八二飛と廻る時は七五角と切られ歩切れにて受ることが出來ませんから△六四銀右と上る▲四五歩△六三玉▲二四歩△二二飛▲四七飛△二四飛▲五七角△二二飛▲二三歩打△同飛▲二四歩打△二二飛▲四四歩△同金▲四五歩打△四三金▲四四金打△四二歩打▲五三金△同金▲二三銀打にて全く勝となります

二

此局は上手方七四金止めといひまして上手から金が早く立つて攻て來る將棋で力指し故下手方も最も注意をせなければなりません

△六二銀▲七六歩△五四歩▲五六歩△八四歩▲七八銀△六四歩▲八

六歩△七二金▲六七銀△九四歩▲九六歩△五二金▲七八飛△六三金左と上るは七四歩と突かないで七四金と立つ意味でありますから下手方も四八玉と越す前に▲五八金左と指すのです△八五歩▲七七角△五三銀▲四八玉△七四金▲六八角△六五歩▲同歩△同金▲七七桂△六四金▲六五歩打△六三金引く▲八八飛と廻る△七四歩▲三八玉にて上手方は七三桂と上るか又は七三金上るかに分れます

▲三八玉の變化一　此時△七三桂と上る時は▲四八銀と指しますこれは七五歩又は五五歩を指す爲め六六へ立つて行く銀であります△四二玉▲五七銀△三二玉▲六六銀右△四二銀上る▲七五歩△同歩▲同銀△七四歩打▲六六銀引く△四四歩▲七六銀△三四歩▲八六歩△同歩▲八五歩打△八一飛▲八六飛△八三歩打▲七五歩打△同歩▲同銀右△七四歩打▲同銀△同金▲七五歩打にて下手方指し良いのであり

ます

▲同變化の二　▲三八玉の時△七三金と上る▲四八銀△八四金▲五七銀△七三銀▲六六銀右にて上手方四二銀と上るか又は四四銀と上るかに分れます

▲三八玉の變化中▲六六銀右の變化一　此時△四二銀上る▲五五歩△同歩▲同銀△五四歩打▲六六銀引く△四一玉▲八六歩△同歩▲八五歩打△同

▲三八玉の局面

持駒　△歩▲なし

桂▲四六角△九二飛▲八五桂△同金▲七七桂打△八四金▲八六飛△八五歩打▲同飛にて次には桂のなりがあつて下手方指し良いのであります

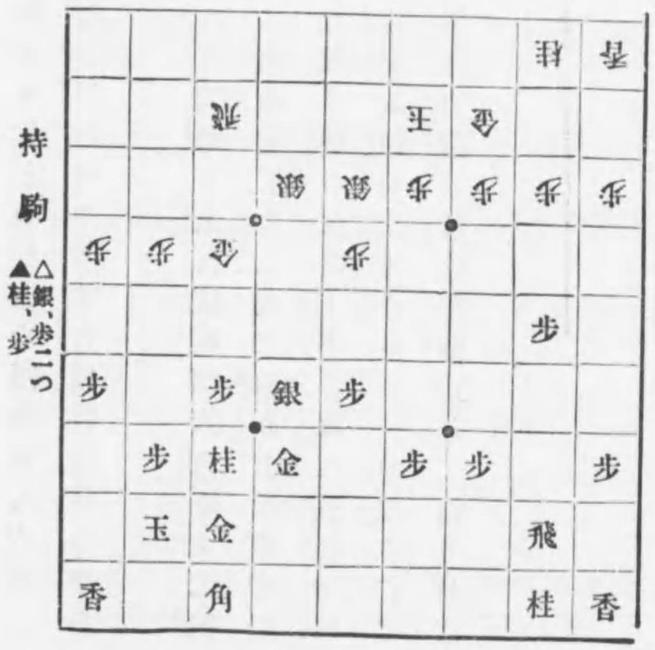
▲同變化の二　▲六六銀右の時△四四銀と上れば▲四六角△六二飛と廻る此時下手方▲五七角△八二飛▲七五歩△四二銀▲七六銀にて良いのであります、又上手方△六二飛と廻つた時下手方▲八五桂△同金▲八六歩△八四金▲八五歩△同金▲同飛△同桂▲九一角なるにても良いのでありますが八五桂の手は力指し故餘程注意して指さねばなりません

三

此局は檜といひまして下手方居飛車にて指すのです、角落に檜は下手

方利益なる指方であります

△六二銀▲七六歩△五四▲五六歩△六四歩▲六六歩△六三銀▲七八銀△四二銀▲五八金右△五三銀▲六七金△八四歩▲二六歩△三二金▲二五歩△九四歩▲九六歩△七四歩▲四八銀△四二玉▲七七銀△六二金▲六八玉△七二飛▲七八玉△七五歩▲同歩△同飛▲七九角△七二飛▲七六歩打△七三金▲八八玉△七四金▲七八金



▲同桂の局面

△七三桂▲五七銀△六五歩▲同歩△同桂▲六六銀右△七七桂なる▲同桂にて此時上手方は六四歩と打つか又は六二飛と廻るかに分れます

▲同桂の變化一　此時上手方△六四歩と打つと▲七五桂打△五二銀▲八三桂なる△七一飛▲七五歩にて下手の勝であります

▲同變化の二　▲同桂の時△六二飛と廻る▲二四歩△同歩▲同角△二三歩打▲四六角△六四歩打にて此時下手方七五歩と突ても勝でありますが又▲六五歩打△四五銀打▲六四歩△同銀右▲六五歩打△四六銀▲六四歩にても下手十分勝であります

左香車落

向上方手
手前下方手

香車落に右香落と左香落とがありますが左香落は現時專ら流行し右

香落は指すことがありませんから右香落の方は省いて左香落を說きます此將棋は實に六ヶ敷將棋でありまして上手方には香の痛みはあるけれど先手に出るの德があります從方が利益か解らぬ位であります尤も各種の定跡書には上手方良しとしてはあるけれども夫れは主に上手方に特に惡い手を儲へてあります本來定跡と云ふ者は双方共にあらゆる良い手を選んで指しても道理上駒を引た方が負ると云ふ樣に出來なければならんですが前に申す通り香落は香の痛みが大きいか先手の利益が大きいか解らぬ位でありますから下手方必勝と云ふ樣な法を示すのは却々困難であります夫れは事實に於て今日迄香落に就ては上手方の研究は非常に進んで居りますが下手方の研究は之れに較べて見ると足らないからであります兎も角も此將棋を指すには下手方は香の痛みを指すことは始終心懸けて居つても容易に指しては不可ません指すが如くに見せかけて指さず駒を組立る上に於て自然と其痛みの現はれるのを待つて指すと云ふ心掛が最も肝要であります

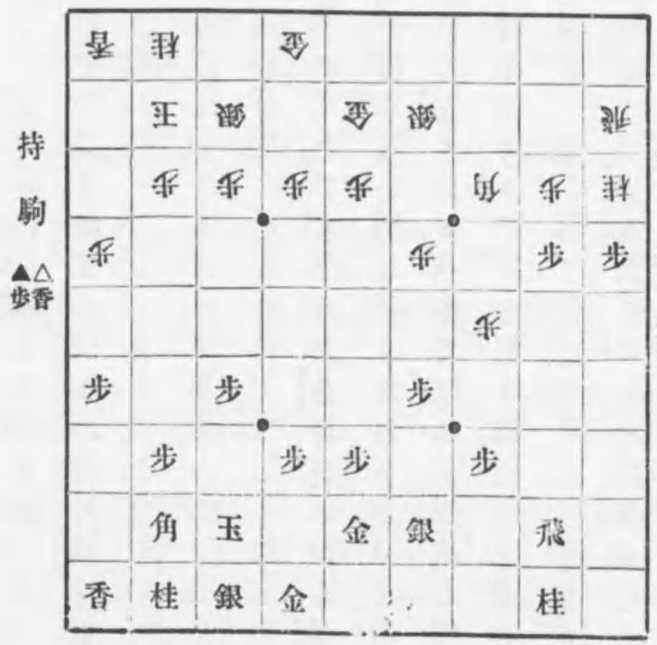
一

△三四歩▲七六歩△四四歩と指すのは上手方は端に香が無いから最初に角を換つては十分なる駒組が出來ないから暫く之れを止めて指すのです▲二六歩△三五歩は飛車が三筋へ廻る意味です▲二五歩は飛車の働きを附る歩でありまして若し玆で外の手を指す時は三二飛と廻られ次に二五歩と指しても三四飛と浮かれて指し惡くなります△三三角▲一六歩△三二飛▲一五歩△六二玉▲六八玉△七二玉▲七八玉△八二玉▲四八銀△七二銀▲五八金右△九四歩▲九六歩△四二銀

▲四六歩△五二金左▲一四歩△同歩▲同香△一三歩打▲同香なる△同桂▲一四歩打△一二飛▲二四歩にて上手方同歩と取る手と同角と取る手に分れます

▲二四歩の變化一　此時上手方△同歩と取る▲一八飛△二五桂▲一五飛△一一香打にて下手方二六歩と打つ手と二三歩と打つ手とに分れます

▲二四歩の變化中△一一香打



▲二四歩の局面

の變化一　下手方此時▲二六歩と打つ△一四飛▲同飛△同香▲二五歩△一八香なる▲二四歩△二二歩打にて此形にては双方共色々仕掛の手がありまして先づ五分々々であります

△同變化の二　△一一香打の時▲二三歩と打つ△一四飛▲同飛△同香▲二二歩なる△同角▲一二飛打△三三角▲一四飛なる△三六歩▲同歩△三七歩打▲同桂△同桂なる▲同銀にて上手の指す番でありますが下手からは次に九五歩と突き端を指す手がありまして少しく良い位であります

▲二四歩の變化二　此時上手方△同角と取る▲同飛△同歩▲二三角と打つと上手方は此時二二飛とよれば一三歩となられ又一一飛と引けば四四角五一飛と廻りて位惡しくなる故△一一歩と打つ▲一二角なる△同歩▲一三歩なる△同歩▲二一飛打△二七飛打にて上手方位

が少し良いのであります

此指方は今は餘り指しませんが香落の意味は之れから研究して行くべきであります若し双方の分れが五分々々であつたならば駒を落すと落される程力に於て違ひがあること故結局は上手が勝つことゝなります

二

△三四歩▲七六歩△四四歩▲二六歩△三五歩▲二五歩△三三角▲六八玉△三二飛▲七七玉△六二玉▲四八銀△七二玉▲一六歩△四二銀▲一五歩△五二金左▲五八金右△九四歩▲九六歩△八二玉▲一八飛と廻ると此時上手方が三六歩と突き同歩と取らせて四五歩と指す手がありますが二八飛と指すと上手方大いに悪いのです其故上手方は

△一二飛と指すこれは端歩を換らせまいとするのでありますへ一六飛△四三銀▲三六歩△同歩▲同飛と廻ります此時上手方三四歩と受るのは受手のみの手でありまして四六歩と指して來られる手になりますから此處△三二飛と廻ります▲三五歩と打つこれは良い手であります若し此歩を打たないで置きますと四五歩を突て飛角を換られ下手方は桂香の捌きがついて居ないから其打込の爲に取られるやうになり下手の不利盡となります△七二銀にて下手方は一四歩と指すか又は四六歩と指すかに分れます

△七二銀の變化一　此時下手方▲一四歩と指すと△同歩▲同香△一三歩打▲同香なる△同桂▲一四歩打△一二歩打▲一三歩なる△同歩▲四六歩△五四歩▲三七桂と指す此時上手方は若し四二角と引く時は四五歩と突かれ五三角五六桂と打たれて面白からぬ故△六四歩と

突て居ると此時下手方は三四歩と突くか又は四五歩と指すかに分れます

△七二銀の變化中△六四歩の變化一　此時下手方▲三四歩と突くと△四二角▲四五桂△三四飛▲同飛△同銀▲四四角△四五銀▲同歩△四七歩打にて上手方は先に廻つて居るだけに德であります

△同變化の二　△六四歩の時下手方▲四五歩と指すと同歩

△七二銀の局面

	桂		金				桂	香
		銀		金		飛	玉	
歩	歩	歩	歩	歩	銀	角	歩	歩
					歩			歩
歩	歩					歩		
		歩		歩	歩	飛		歩
			歩	歩	歩		歩	
香	桂	銀	金				桂	香

持駒　△歩▲なし

と取つては角の換りにて面白からぬ故△五五歩と指す▲同角△五四銀にて此時下手方は四四角と指すか又は八八角と引くかに分れます

△五四銀の變化一　此時▲四四角と指す△同角▲同歩△一八角打▲一六飛△二七角なる▲一三飛なる△三六歩打▲二一角打△三五飛▲五四角なる△三七歩なる▲二七馬△同とにては此分れにては下手方は先に廻つて居るだけ指し良いです

△同變化の二　又△五四銀の時▲八八角と引く△四五歩▲四四桂打△四二飛▲五二桂なる△八八角なる▲同銀△五二飛▲三四歩△四六桂打▲六八金よる△二七角打▲三五飛△三八角なる▲五九銀△五八歩打▲同銀△同桂なる▲同金よるにて双方の位は先づ五分であります

△七二銀の變化二　此時下手方▲四六歩と指す△五四歩▲五六歩△六四歩▲四七銀△六三金▲三七桂△七四歩▲四五歩△五五歩▲同角

と取ります此形は上手方も下手方も共に堅固に組み上げたのでありまして此れならば下手が指し良いのでありますが且つ現今にては香落の研究は是迄にてあります

平手

平手將棋は先手方に一手の徳があります併し徳と云うても最初の駒立の中にあるのですから先手方は始終其徳を失はぬやうに心掛けて指さねばなりません先手に出で先手の利益を指さぬ時は其位五分々々となり先手の効がありません平手將棋は此道理に依つて勝敗が分れるのであります扨て平手將棋を指すには先手は何時にても居飛車で出るのが利益であります四間三間中飛なぞと飛車を振つて指す將棋は飛車が廻るだけ既に一手の損ではありますが其代りに玉を堅固

に圍ひ縦し一方を破らせても敵の隙を見て一舉にして攻崩さうとする將棋であります戰略の語を假りて云ふと居飛車は正々堂々の陣法でありますが他の中飛三間等は所謂奇戰の陣法に屬するのであります

一　居飛車四間　手前先手方　向後手方

△七六歩▲三四歩△二六歩▲四四歩△二五歩▲三三角△四八銀▲三二銀△五六歩▲五四歩△五八金右▲四二飛△六八玉▲六二玉△七八玉▲七二玉△九六歩▲九四歩△三六歩▲八二玉△七七角にて若し後手方此時五二金左と締る時は八六角、四一飛、六八角と指す手がある故七二銀と締るか又は四三銀と上るかに分れます

△七七角の變化一　▲七二銀と締る時は△六八角▲四五歩△八八銀

にて後手方は五二金左四三飛五五歩の三つに分れます

△七七角の變化中△八八銀の變化一　此時後手方▲五二金左と締る時は△二四歩▲四三飛と上る△二三歩なる▲同銀にて此時先手方同飛なる時は八八角と切られて飛車を取られる故△七七角と上る▲同角なる△同銀▲二二歩打△三一角歩▲四四角打△七五角なるにて先手方指良いのであります

▲七七角の局面

香	桂		金	銀	桂	玉		香
歩		歩	角	銀	飛			
		歩			金		歩	
	歩							
歩			歩		歩		歩	
	飛			玉		歩		
香	桂	銀	金					

△同變化の二　△八八銀の時▲四三飛と上れば△二四歩▲同歩△同角▲四四角△六八角▲二三歩打△七七角にて先手方は二二歩打の手があつて良いです

△同變化の三　△八八銀の時▲五五歩と指す△同歩▲同角△三七銀▲三三銀△七七銀▲三五歩△二六飛▲三六歩△同飛▲四四銀△六六銀▲六四角△五四歩打▲三八歩打△五七角にて先手の位良いのです

△七七角の變化二　此時後手方▲四三銀と上る△六八銀▲七二銀△四六歩▲五二金左△四五歩▲六四歩△三七桂▲六三金△四四歩▲同銀△二四歩▲同歩△四五歩打▲五三銀△三三角なる▲同桂△七七角打▲四五桂△同桂▲同飛△一一角なる▲四七歩打△同銀にて後手方は四六歩と打つか又は三七角と打つかに分れます

△七七角の變化中△同銀の變化一　此時後手方▲四六歩と打つ△三

八銀▲四七角打△四八歩打▲五六角なる△五七銀▲七四馬△三七銀▲四一飛△六六馬▲四五桂打△四六銀右▲五七桂なる△同銀にて先手方の位良い形であります

△同變化の二　△同銀の時▲三七角と打つ△二四飛▲四六歩打△三八銀▲一九角なる△二一飛なる▲三七香打△五七桂打▲一五飛△二七銀▲一七飛なる△四四歩打▲四七歩なる△同金▲四二歩打△三三馬▲二八馬△三四馬▲七一金△一六馬にて次には先手方に九五歩と突て端より仕掛の手がありまして指し良い形であります

二　櫓角換

△七六歩▲三四歩△二六歩▲四四歩△二五歩▲三三角△四八銀▲三二銀△五六歩▲五四歩△五八金右▲八四歩△七八銀▲八五歩△七七角▲五二金右△六八角▲四二玉△七七銀▲四三金△二四歩▲同歩△同角▲同角△同飛▲二三歩打△二八飛▲三一玉△六八玉▲二二玉△七八玉▲六二銀△五七銀▲五三銀△六六歩▲三三銀△六七金▲三二金△六八金上る▲九四歩△九六歩▲七四歩△一六歩と指す時は先手は飛先の歩が切れて手に持つて居るから甚だ利益でありまして、此先は後手方より四

持駒　△角・歩　▲角

香	桂	玉		金				
歩	歩	銀	歩	金	銀	歩		
				歩		歩		
							歩	
歩				歩	銀	歩		歩
		歩	金	金			歩	
	飛	玉	銀					
香	桂		歩					香

五歩と突く時は四六歩と突て宜しく又後手方六四銀と上れば先手は歩がある故六五歩と突て宜しく何れにしても指し良いのであります

三相櫓

△七六歩▲三四歩△二六歩▲四四歩△四八銀▲三二銀△五六歩▲五四歩△七八銀▲八四歩△五八金右▲五二金右△六六歩▲四三金△六七金▲八五歩△七七銀▲六二銀△七九角▲三一角△七八金▲三三銀△六九玉▲三二金△二五歩▲四一玉△三六歩▲七四歩△六八角▲四二角△七九玉▲三一玉△三七桂▲七三桂△八八玉▲二二玉△四六歩▲六四歩△四七銀▲六三銀△一六歩▲九四歩△四五歩▲同歩△同桂▲四四銀△四六銀▲四五銀△同銀▲四四歩打△二四歩にて此時後手方す同歩と取るか又は四五歩と指すかに分れます

△二四歩の變化一　▲同歩と取る時は△同角▲同角△同飛▲二三歩打△三四銀にて此時後手方二四歩と指せば二三歩と打たれ又三四金ならば同飛にて後手方歩切れ故何れにしても先手の指良い形であります

△同變化の二　△二四歩の時▲四五歩と指す△二三歩なる▲同金△二四歩打▲三三金左△二三銀打▲三一玉△三四銀なる▲同金左△二三歩なる▲二五歩打△二二歩打にて次には色々仕掛の手かあつて先手方良いのであります

四相櫓

△七六歩▲三四歩△二六歩▲四四歩△四八銀▲三二銀△五六歩▲五四歩△三六歩▲八四歩△七八銀▲八五歩△七七銀▲三三銀△六八玉

▲四二玉△七八玉▲三二玉△五八金▲五二金△二五歩▲三一角△七九角▲三四金△一六歩▲六二銀△六六歩▲七四歩△六七金▲二二玉△八八玉▲三二金△七八金▲七三銀△三七銀▲九四歩△一五歩▲九五歩△三五歩▲同歩△同角▲八六歩△同銀▲同角△同歩▲八五歩打にて先手方は同歩と取る事が出來ませんから六八角と引けば其時七七金よる八五銀△三六歩▲三歩六五銀

持駒　△銀歩　▲桂

香							桂	香
	飛					角	金	玉
歩		桂	銀	歩	歩	歩	歩	歩
歩					歩	歩		
						銀		
歩		歩	歩	歩				
	歩							
歩	銀	金	角					
	玉	飛						
香							桂	香

打にて次には七五歩と突く手もあつて此れは後手方の方が指良い形であります

五　石田流

向先手方
手前後手方

△三四歩▲七六だ△三五歩と指して來るのは飛車が三筋へ廻る意味でありまして本來は角を換れば一手の損でありますが此場合は換つても差支ないのみならず石田の受け方としては良い手でありますから

持駒　△角歩二　▲銀

香	桂						桂	香
	飛					金	王	
歩		銀	歩		金	銀	歩	歩
			歩		歩			
歩						角	歩	歩
	歩	歩	歩	歩				
歩			金		歩	銀		
	玉	金					飛	
香	桂						桂	香

▲二二角なると指す△同銀▲八八銀△三二飛▲七七桂△六二玉▲六八玉△七二玉▲四八銀△九四歩▲九六歩△八二玉▲二六歩△七二銀▲二五歩△三六歩▲同歩△同飛▲三七歩打△三四飛▲七八玉△五二金左▲五八金△一四歩▲一六歩△四四歩▲四六歩と組み上げまするとと先手からは指して來ることが出來ません先手方は此場合桂が上つても銀が上つ

持駒　△角、歩　▲角

香	桂		金				銀	香
	銀			金			王	
	歩			歩	歩	歩	桂	歩
歩		飛	歩					
	歩							
歩			歩			歩		歩
						歩	歩	
香			金				銀	香
	桂	飛		銀	金		玉	

て角の打込があり、又五四歩と突て居れば四七銀と上り次に三六歩と指され何れにしても先手方の不利益なる形であります

六　先手角換

向先手方
手前後手方

先手にせよ後手にもせよ最初角を換るのは換つた方が一手の損となつて惡いのであります角を換つた爲に紛れを指される者がありますから其理

持駒　△歩三つ　▲なし

香	桂		王				銀	香
歩	銀	金		金	銀		飛	
	歩		歩	歩	歩			
	歩							歩
歩							歩	
				角		角		
歩	歩	歩		歩	歩		歩	歩
	飛		銀	金		金	銀	
香			玉				桂	香

合を示しませう

△三四歩▲七六歩△八八角なる▲同銀にて後手方一手の徳となりました△六五角打▲五八金右△七六角▲四五角打△五二金右▲三四角△三二金▲七八金△二二銀▲五六角△四一玉▲六九玉△六二銀▲四八銀△八四歩▲一六歩△一四歩▲二六歩△九四歩▲二五歩△八五歩▲一五歩△同歩▲二四歩△同歩▲一二歩打と指す時は後手の方が却つて先となります

將碁手ほどき終

●大阪屋號發行將棋書類目錄●

名人小野五平校閲 將棋新報社編	●將棋虎之巻（定跡）	和裝四六判 全一册	定價金六拾錢 送料金四拾錢
名人關根金次郎 八段土居市太郎共講	●將棋定跡講義（定跡）	和裝四六判 全一册	定價金八拾錢 送料金四拾錢
八段花田長太郎著	●將棋新定跡（定跡）	和裝四六判 全一册	定價金壹圓五拾錢 送料金六拾錢
八段土居市太郎著	●將棋はめ手千態（はめ手）	和裝四六判 全一册	定價金壹圓 送料金六拾錢
大橋、伊藤兩家元 將棋新報社編輯	●將棋秘傳（定跡）	和裝四六判 全一册	定價金八拾錢 送料金四拾錢
天野宗歩著	●將棋精選（定跡）	和裝四六判 全一册	定價金五拾錢 送料金二拾錢
名人大橋宗英著	●將棋歩式（定跡）	和裝四六判 全一册	定價金四拾錢 送料金二拾錢
七段福島順喜著	●將棋絹篩（定跡）	和裝四六判 全一册	定價金四拾錢 送料金二拾錢
將棋新報社編	●將棋講義錄（定跡）	和裝四六判 全三册	定價金壹圓八拾錢 送料金十二錢
名人伊藤看壽著	●將棋圖巧（詰將棋百番詰手）	和裝四六判 全一册	定價金四拾錢 送料金四拾錢
名人關根金次郎閲 將棋新報社編	●獨習速成將棋定跡解（定跡）	和裝四六判 全一册	定價金五拾錢 送料金四拾錢

●大阪屋號發行圍碁書類目錄●

名人關根金次郎閲 八段井上義雄閲 將棋新報社編	●將棋手ほどき（定跡）	和裝四六判 全一册	定價金六拾錢 送料金四錢
將棋新報社編	●名人詰將棋百番（詰手）	和裝四六判 全一册	定價金六拾錢 送料金四錢
八段土居市太郎著	●詰將棋講義（詰手）	和裝四六判 全二册	定價金壹圓六拾錢 送料金六錢
名人關根金次郎閲 八段土居市太郎著	●將棋實戰講話（指方）	和裝四六判 全一册	定價金壹圓 送料金四錢
名人關根金次郎著	●將棋（飛車落 角行落）勝敗秘訣（指方）	和裝四六判 全二册	定價金壹圓五拾錢 送料金八錢
將棋新報社編	●將棋明治名家手合（手合）	和裝四六判 全一册	定價金七拾錢 送料金四錢
八段土居市太郎著	●將棋秘訣陣立くづし法（くづし）	和裝四六判 全一册	定價金壹圓 送料金四錢
伊藤宗印著	●將棋手鑑（指方）	和裝四六判 全一册	定價金四拾錢 送料金四錢
八段土居市太郎紹講	●將棋精選細講（自飛香落 至角行落 定跡）	和裝四六判 全一册	定價金壹圓 送料金四錢
同	●同（平手の卷 定跡）	和裝四六判 全二册	定價金壹圓五拾錢 送料金八錢
同	●同（自飛香落 至六枚落 定跡）	和裝四六判 全一册	定價金壹圓 送料金四錢

昭和五年八月一日印刷
昭和五年九月十日發行

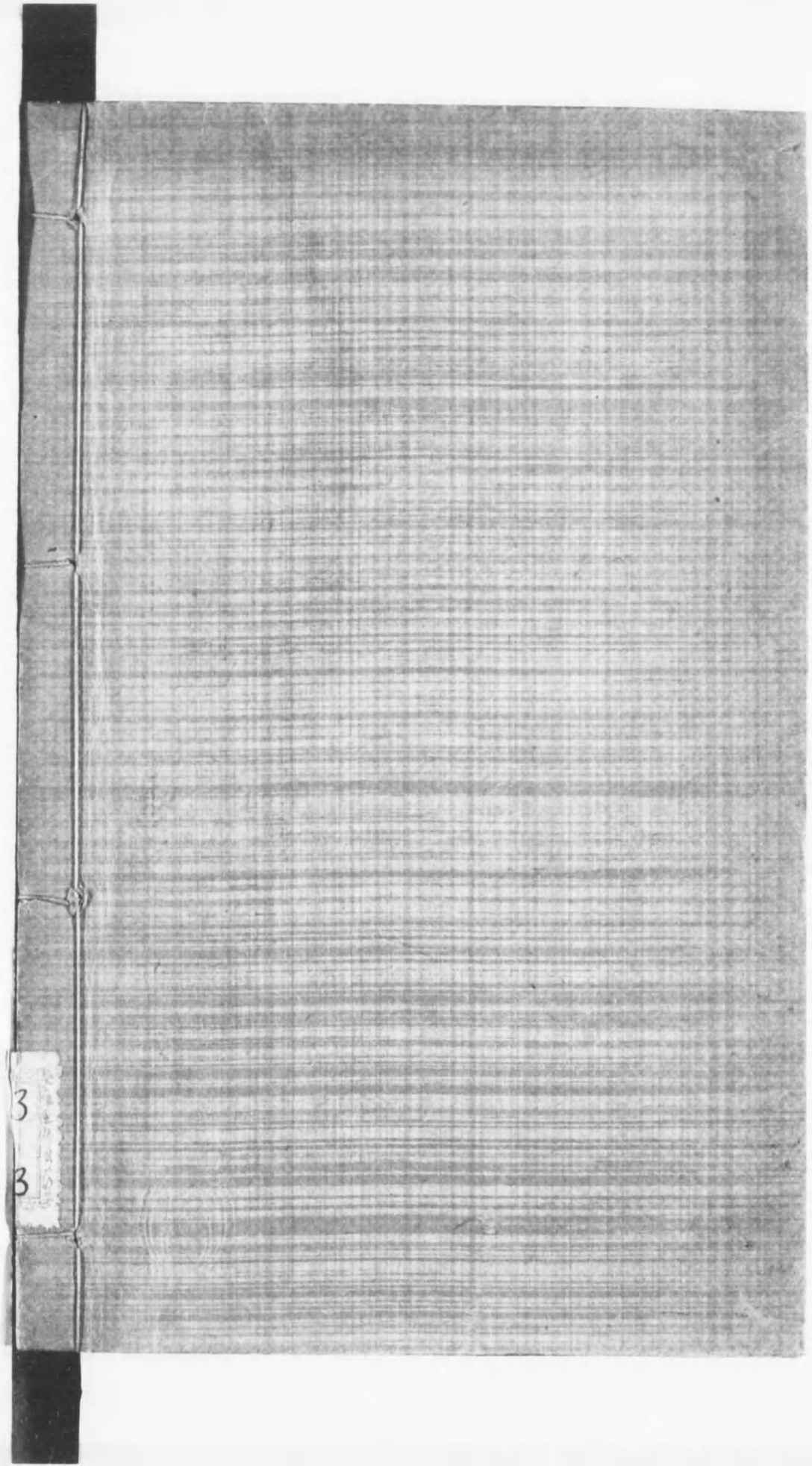
將棋手ほどき
定價金六拾錢

不許複製

著作權所有

發兌

編輯者　將棋新報社編輯部
校閲者　八段　關根金次郎
校閲者　八段　井上義雄
發行者　東京市日本橋區吳服橋二丁目五番地　濱井松之助
印刷者　東京市京橋區新湊町五丁目一番地　高橋赤次郎

東京市日本橋區吳服橋二丁目五番地
大阪屋號書店
振替東京一三七五番
電話　三七三七番
日本橋（24）三六八九番
四五三五番

終